

香 取 市

集客・観光・交流アクションプラン(案)

平成 23 年 2 月

香 取 市

目 次

〔1〕 集客・観光・交流アクションプランの理念と方針	01
1-1 アクションプラン策定の背景	01
(1) 香取市の集客・観光・交流に関わる動き	
(2) 香取市の集客・観光・交流に関する現状と課題	
1-2 アクションプラン策定の目的	03
(1) 集客・観光・交流の意味すること	
(2) アクションプランの性格・役割	
1-3 香取市における集客・観光・交流のこれまでの取組み～取組みの掛け声	06
(1) 香取市の集客・観光・交流の地域特性～香取交流八景	
(2) 集客・観光・交流の取組みの掛け声	
1-4 アクションプランの目標とする姿	10
(1) 目標年次と目標とする市民の姿	
(2) 目標とする地域の姿と数値目標	
1-5 アクションプランの基本理念とキーワード・基本方針	14
(1) アクションプランの3つの基本理念	
(2) アクションプランの4つのキーワード・基本方針	
〔2〕 集客・観光・交流アクションプランの全体像	17
2-1 アクションプランの全体構成	17
2-2 香取の力を結集する1ダースの戦略プロジェクトと三十六計	19
2-3 戦略プロジェクトと目標との関係	52
〔3〕 集客・観光・交流アクションプランの進め方	54
3-1 展開シナリオ	54
3-2 効果的な推進体制	57
3-3 アクションプランの効果検証とローリング	58

〔1〕集客・観光・交流アクションプランの理念と方針

本章では、香取市集客・観光・交流に関する地域特性と動向、これまでの取組みにおける「掛け声」等を検証した上で、アクションプランの目指す目標像と基本理念を提示し、目標達成のための4つの基本方針を設定します。

1-1 アクションプラン策定の背景

(1) 香取市の集客・観光・交流に関わる動き

中心市街地における長年の取組みによる集客力の創出

香取市佐原区の中心市街地においては、これまで重要伝統的建造物群保存地区にも選定された歴史的な町並みや祭事を活かし、まちづくり型観光への継続的な取組みを進めてきており、平成17年度優秀観光地づくり賞・金賞受賞といった全国的な評価をうけるなど、一定の成果・効果を生んできました。また平成22(2010)年3月には、佐原区のみならず香取市全体の集客・観光構造に大きな効果をもたらすと期待される佐原広域交流拠点「水の郷さわら」がオープンしています。

多様な集客・観光・交流素材の存在、それらの活用に向けた取組みも始動

平成18年3月に佐原市、小見川町、山田町、栗源町の合併により誕生した香取市では、利根川右岸に広がる水郷地域と、その南部の里山・源流地域とが連続するとともに、多様かつそれぞれの地区が大変豊かな自然環境および生活文化の魅力をもつ市域が形成されています。このような特性を活かし、香取市では交流人口増による「人が集うまちづくり」を基本理念のひとつとしてかかげており、佐原区のもつ集客力を市域全体へと波及させ、集客・観光を軸にまちづくりと連動した持続可能な観光まちづくりを展開することが理念達成の道筋と考えられます。

この「人が集うまちづくり」による地域活性化を図るため、香取市では中心市街地活性化基本計画に位置づけられたTMO構想「佐原・戦略ビジネスプラン」を引き続き市民協働で推進するとともに、各地区において以下のような取組みを始動させています。

○千葉県地域活性化プラットフォーム事業～この指とまれ

香取市市民協働指針に基づく市民活動団体との連携により、新たな観光資源の創出、地域資源の活用やコミュニティビジネスの起業等による地域振興・着地型の新たな観光創造を目指す事業

○美しい源流と水郷のふるさと交流空間づくり

市民協働型地域づくりにより、都市と農村の交流の全市的なモデルとして取り組む事業

○市循環バス（コミュニティバス）の休日周遊ルート運行の実験

佐原区の中心市街地と水の郷さわら、香取神宮等を結び、観光客用の周遊の利便性を高める事業

○ふるさと回遊サポートシステム、デジタルサイネージの整備

インターネットやGPS携帯電話などの情報技術を活用した、利便性の高い快適な観光周遊の支援システムや、タッチパネル式の案内サインの整備事業

(2) 香取市の集客・観光・交流に関する現状と課題

香取市は、毎年 220 万人以上の観光客入込数をほこる香取神宮や、100 万人以上の見物客が訪れる佐原の大祭が存在する上に、小野川沿いの歴史的町並み(50 万人以上)、道の駅くりもと(100 万人以上)、風土村(40 万人以上)といった集客・観光拠点が整備され、このような名所や施設では大変多数の観光客数を集めています。一方で、観光の形態や市域全体に視点を広げると、以下のような課題も挙げられます。

現状は日帰りが大半 ⇒ 伸ばしたい宿泊滞在化

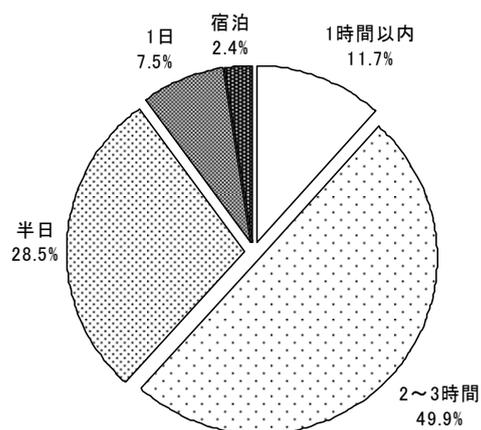
前述したように観光客数は、名所・施設利用合計で年間 676 万人（平成 21 年）にのぼっているものの、宿泊客数は少なく（香取市総合計画では 2 万人強と推計）、日帰り観光客が大半といった状況にあります。

香取市には、名所や道の駅等の広域交流拠点だけでなく、多様な地域資源が潜在しています。これらを有効活用することにより、観光客が足早に市外に去っていくのではなく、市内でじっくりと時間を消費し、豊かな観光体験を楽しめるようにするとともに、水郷・歴史的町並み・農村といった環境のなかでの交流や宿泊自体の魅力に磨きをかけて、滞在時間の延長、宿泊化を図っていくことが望まれます。これは、観光客の観光体験もより深いものにするとともに、集客・観光・交流による地域経済波及効果を高めることにつながっていきます。

■参考：中心市街地における観光客の滞留時間

資料) 香取市中心市街地交流人口等調査業務報告書，平成 19 年 6 月

注) 6 日にわたる調査結果の平均
ただし、無回答および地元在住を除く



リピーター化の促進 ⇒ そのための満足度向上

名所旧跡型の観光地は、交通混雑、外部資本の無秩序な流入や、ホスピタリティが行き届かなくなること等により、時間の経過とともに、観光客に感動体験を与えることができなくなる場合が少なくありません。加えてこれらが要因となって、生活者との摩擦を起こすことさえあります。

小野川沿いの歴史的町並み等の卓越した集客拠点をもつ香取市においては、このような状況が生まれないように未然に取り組んできています。今後も来訪者の満足度評価に注意を払いつつ、リピーターを増やすとともに、単なる観光から地域住民との交流へと深化（進化）させていくことが課題となります。

集客・観光・交流に関わる資源が未活用 ⇒ 求められるプログラム化とパッケージ化

一方で、市域の観光客入込数の伸長には格差もみられ始めています。また源流エリア等では、現状では素材のまま埋もれていたり、試用されている地域資源を有効活用し、観光・交流の本格的な促進が期待されています。これは、市内の卓越した集客力を活かし、リピート利用を促すことにより、市内全域に集客・観光・交流の果実を行き渡らせるうえで、必須の条件とも言えます。

地域資源の有効活用とは、具体的には地域資源（素材）に磨きをかけながら、体験・交流プログラム化したり、それらを相互につなぎあわせるパッケージ化です。

1-2 アクションプラン策定の目的

佐原区の中心市街地活性化基本計画策定から概ね10年が経過し、その見直しが行われる中で、前述したような佐原広域交流拠点「水の郷さわら」が開業した平成22年は、香取市の集客・観光・交流にとって節目の年と位置づけられます。

香取市の歴史、産業・農産物、食や風物詩・伝統芸能、地域固有の文化などは、地域の暮らしとともに育まれ伝えられてきたものです。この地域での豊かで誇り高い暮らしぶりを、少しでも多くの方々に伝えたい、ご覧いただきたい～“集客”“観光”“交流”を通じた香取市のにぎわいの創出を目指し、産業間と地域間の連携も強めつつ、市民と事業者と行政とが一体となって魅力ある香取市を創出するための行動の目標・指針とするために、『香取市集客・観光・交流アクションプラン』を策定します。

不確実で先行きが見えない時代を迎えています。このような時代だからこそ、関係者の力を結集し、地域のにぎわいを創出するための目標・指針が必要となっています。

(1) 集客・観光・交流の意味すること

「集客・観光」のみならず、「交流」への展開を重視した、地域活性化戦略

「暮らし」「農業」「伝統・祭り」「環境」などをベースとする香取市各地区の魅力は、地域の成り立ちや生活文化をじっくりと学び、地域住民とのふれあいや交流を媒介として享受できるものである。名所旧跡を足早に巡るといった従来型の「集客」「観光」から発展させ、このような資源を活かした“豊かな旅”を提供しながら回遊・長時間滞在化を促進していくことがねらいであり、その戦略の中心には「交流」があります。

さらに目標とするのは、「交流」を手段として単なる観光客から香取ファン、香取サポーターを育

成し、交流人口との協働で地域活性化を図ることで。

一方、佐原、小見川、山田、栗源といった各地区の魅力の連携、あるいは水郷三都観光推進協議会等の広域連携を成功に導く要点は、まずお互いの地区・地域の魅力を知り、市民活動団体相互の「交流」を図っていくことでもあります。この点でも「交流」は戦略の中心的な概念となるものです。

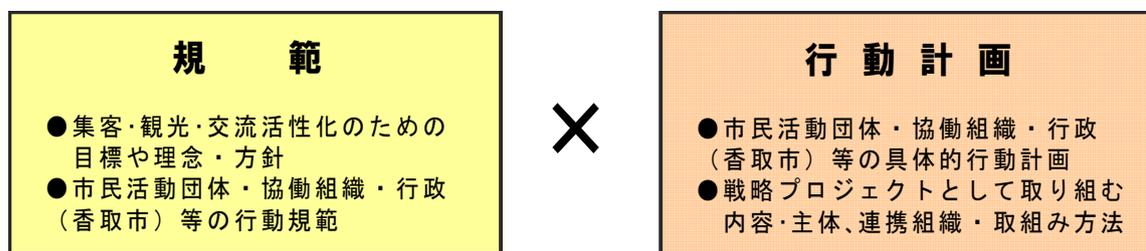
(2) アクションプランの性格・役割

多様な取組みを持続・連携させて効果を高める【規範】×【行動計画】としてのプラン

前述したような多様な取組み実績を踏まえつつ、これらを持続的に展開させるとともに、相互に連携することによる香取市全体の魅力向上や、地域活性化につなげていくことが今後の課題となります。したがって本アクションプランは、市民活動団体や協働・支援組織が、取組みの目標や方向性を共有し、連携していくための【規範】となる計画と位置づけられるものです。

また単なる施策のリストアップではなく、取組み主体と連携組織、取組み方法（財源等推進力の確保や仕掛け・展開を含む）等を明確にすることにより、実行力と実効性の両面をもつ【行動計画】を策定します。

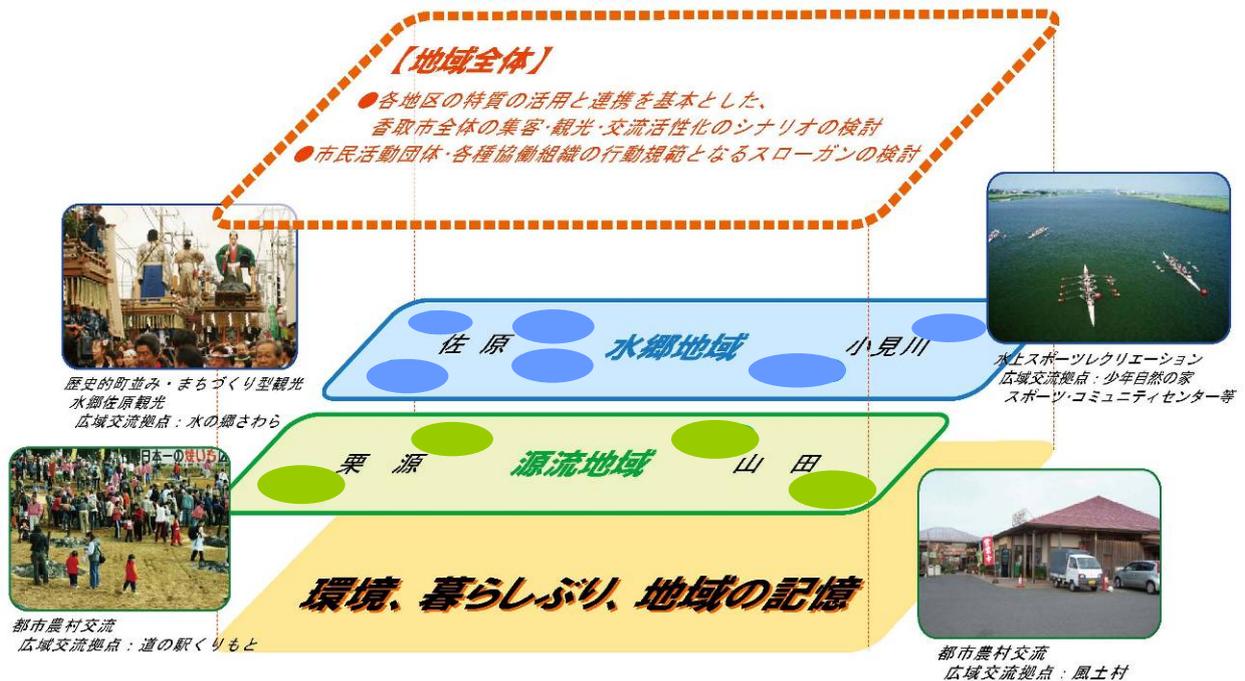
■アクションプランの特徴・ねらい



項 目	本事業でねらいとする 集客・観光・交流アクションプラン	一般的な観光振興ビジョン
計画のねらい	オール市民による観光まちづくり	どちらかといえば 観光事業（者）の活性化
設定する目標	市民協働による行動規範	観光地としての姿・イメージ
策定する施策・事業	“実践的・行動的”な事業を“戦略的・機動的に”位置づけるもの	必要と考えられる“理想的な”施策を “総合的に”網羅しておくもの
策定内容	具体的事業、具体的主体や現実的体制 実行力と実効性をもつ行動計画	事業イメージ、想定される主体や体制 必ずしも実行力や実効性を伴わない

水郷・源流エリアそれぞれの地域特性を反映させたプラン

香取市全体の集客・観光・交流活性化のシナリオ、および市民活動団体・各種協働組織の行動規範（スローガン等）を策定するとともに、水郷エリアである佐原・小見川、里山・源流エリアに位置づけられる山田・栗源のそれぞれの特性にも十分配慮し、資源・特性の具体的な活用方法や集客・観光・交流による取組み戦略の方向性を定めていきます。



1-3 香取市における集客・観光・交流のこれまでの取組み～取組みの掛け声

(1) 香取市の集客・観光・交流の地域特性～香取交流八景

香取市では、佐原、小見川、山田、栗源の4地区それぞれが、これまでも集客・観光・交流に取り組んできました。

<佐原区>

古くから水郷観光が盛んでしたが、昭和から平成に入る頃、佐原の大祭振興に関する活動や町並み保存に関する取組みが本格化し、平成8年に「小野川と町並み」が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定、平成16年に「佐原の山車行事」が国の重要無形民俗文化財に指定されました。さらに、外国人観光客誘致や「まちぐるみ博物館」など官民一体のまちづくり型観光地づくりを進めてきたことが評価され、平成18年に優秀観光地づくり賞金賞を受賞するに至りました。



<小見川区>

利根川河畔では明治期からつづく水郷おみがわ花火大会が行われ、100回以上の歴史を重ねています。また、黒部川を利用した水上スポーツの大会が開催されるようになり、近年はスポーツ・コミュニティーセンターや県立水郷小見川少年自然の家を拠点として、市民や来訪者にも水上スポーツ・水上レクリエーション活動の舞台を提供しています。



<山田区>

橘ふれあい公園や府馬ふれあい広場など、豊かな自然環境を活かした観光・レクリエーション空間を整備してきました。また、農産物直売所「風土村」をオープンし、食を通じた集客・交流に取り組んでいます。



<栗源区>

栗源のふるさととも祭り開催、ベニコマチ復活事業、栗源オリジナル銘菓開発など、特産品であるさつまいもを活用した取組みを展開してきました。また、貸し農園を併設した道の駅くりもと「紅小町の郷」をオープンし、農業体験を通じた都市との交流に取り組んでいます。



これまでの取り組みを踏まえて、香取市全体の視点から集客・観光・交流資源を捉え直してみると、8つのテーマからなる「香取交流八景」として整理することができます。

■香取交流八景の概要

第八景 ・ 地域のシンボル

地域のシンボルは、市民が誇りを感じ、心の拠り所となっているものです。

“光を観る”観光の原点にかえて、あらためて地域のシンボルを核として魅力を再構築していくことも必要です。

第一景 ・ 水

地域の自然を形づくる川や水郷は舟運を通して歴史文化を培ってきました。また、豊富な清流や湧き水は農業の営みを支えてきました。

このような「水」は風景対象であるとともに生活文化を形成し、また、水面や水辺はアクティビティのフィールドや交流の舞台ともなります。

第二景 ・ 恵みの大地・食

県下屈指の農業地帯であり、田園風景や地域ならではの食文化を形成しています。

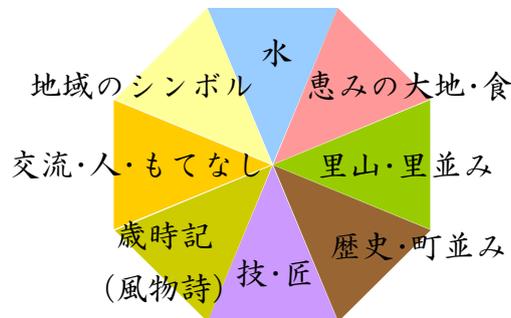
観光体験にとって食は大事な要素であり、豊富な食材、食品、そして食文化を活用していくことが重要となります。

第七景 ・ 交流・人・もてなし

江戸から続くおもてなしの文化や、農村地域の温かな人情が残っています。

来訪者の玄関口となる広域交流拠点のおもてなしや、まちなかでの交流がますます重要となります。

香取交流八景



第三景 ・ 里山・里並み

源流エリアでは人と自然が共生する里山が広がり、美しい田園風景をなしています。

農業や農村生活の体験などグリーン・ツーリズムや、地域住民との交流を展開していく可能性を有しています。

第六景 ・ 歳時記(風物詩)

水郷・川や花を活かした行事やイベント等、四季折々の風物詩が多くあります。

その時にしか味わえない魅力や体験を提供し、リピーターの拡大につなげていくことが期待されます。

第五景 ・ 技・匠

江戸優りの文化を支えてきた伝統の技が優れた職人（匠）によって受け継がれています。

技の体験や匠とのふれあいを通して、生活文化への深い理解や人との交流が生まれます。

第四景 ・ 歴史・町並み

祭礼・神事や歴史的建造物など、各地区に歴史や伝統文化が残されています。

暮らしの知恵や技術、作法等をさらに掘り下げ、来訪者に体験や交流の機会として提供することが望めます。

(2) 集客・観光・交流の取組みの掛け声

香取の集客・観光・交流に関する着実な取組みの背景には、「気持ちを一つにするための極意」があります。それが「掛け声」です。佐原や小見川のまちなかでの商いや、山田や栗源の農業の生産の中では、自分達のことは自らの手で進める精神を、この掛け声の下に結集して取り組んできたことが、今の香取の集客・観光・交流に着実に息づいているのです。

世界相手の大商い



全国都市再生モデル事業において、全国に先駆けて、成田空港の訪日外国人のトランジットの実態を解明する等、成田空港との至近性と訪日観光客の興味を惹く伝統的な佇まいを活かした戦略を示すものが『世界相手の大商い』です。

外国人観光客誘致の「地域観光振興計画」の目標(テーマ)は、『相手は世界、江戸優りの大商い～Global-Local City with Merchant Spirit of □EDO-MASARI』。

- ◎「相手は世界」とは…真の国際化をめざすこと
- ◎「江戸優り」とは…江戸に優るとも劣らぬ佐原の「こだわり」にふれてもらうこと
- ◎「大商い」とは…心からのおもてなしをもって、産業として成立させること

軒先交流～おもてなし For you



町並みボランティア、まちぐるみ博物館等では、お越しいただいた方々との『軒先交流』を通して、良き思い出をお持ち帰りいただくこと、それを主眼におく取組みです。この取組みは、まちなかだけに限ったものではありません。農村地域での交流の原点も、相手を慮る気持ちにあります。まさに「庭先交流」の展開がみられます。おもてなしは一人ひとりの貴方のために…食や体験交流の中に、それぞれの『おもてなし For You』の精神が広がっています。

心の観光・五感+1の観光



訪れた方々、すべての方々に楽しんでいただきたい～ユニバーサル・ツーリズムの原点は「心で接する観光・交流」にあります。身体の不自由な方だけでなく、高齢者や小さなお子様連れのお客さま等。訪日外国人観光客は「言葉」の壁がある方々。お越しいただいた方々の個性の一つと捉えて接するようにすること。

五感を活かす地域であることはもちろんのこと、訪れた方々には、「+α」を感じていただく地域を創ること～それが『心の観光』の目指している姿です。

市民が主役のまちづくり観光



観光地ではない香取市の最大の魅力は、「豊かな環境」と「人の心」にあります。地域の記憶と伝統を礎にした「まちづくり」への取り組みを地域の宝として、その取り組みを「観光へ」と展開しつつあることが特長。

お越しいただいた方々に満足を感じてもらうためには、「地域の誇りと自信」こそが大切です。『市民が主役のまちづくり観光』とは、まさに「地域の誇りと自信」を表現する取り組みのための掛け声です。

江戸優りの産業観光



佐原の中心市街地の活性化の掛け声は『江戸優り』。山車行事・佐原囃子が代表例です。これが地域の“自信”“誇り”であり、“こだわり”です。

時代に流されない、流行だけを追いかけない、絶えず本物を求めつづける…地域に根付く産業を現代に活かすこと、そしてそれを『地域文化』として昇華させること。『江戸優り』の精神に基づく、本物の地域づくりを進める精神がここに 있습니다。

結いの心・まちぐるみ・禰がけの活動



お互いが助け合って暮らすこと、地域の伝統を守って継承するために心を一つにすること…今の日本で希薄になりつつある心が香取にはあります。農村部では『結いの心』として、また、まちなかでは『まちぐるみ』という言葉として定着しています。

“自分たちの住む地域は自分たちの手で…”、風物や環境の維持活動等の身近なことを『禰がけの活動』を通じて、実践する地域・香取。

時代に偏重しない集客・観光・交流は、このような心意気から生まれてきます。

1-4 アクションプランの目標とする姿

(1) 目標年次と目標とする市民の姿

〔目標年次〕 **概ね10年先の地域の姿を見据え、5年先の目標実現に向けたアクションプラン**

不確実で先行きが見えない時代とは言え、10年先の姿を見据えて、着実に目標に近づけていく必要があります。日常的な取組みの積み重ねが、10年先の地域の姿を変えていくこととなります。

本アクションプランでは、“概ね10年先の地域の姿”を見据え、“5年先の目標実現”に向けた、集客・観光・交流のための行動計画を定めます。また、3年毎の見直しを行いつつ、時代の思潮と動向に応じた着実なステップアップを図ります。

〔目標とする市民の姿〕

“一人二役一貢献”～樽がけの精神によって導く本物にしかない地域の輝きを

市民が地域に誇りと自信をもって暮らしている姿、そして暮らしの中に根づく伝統・文化、風物・風習、祭り、旬の豊かな食に、多くの来訪者が惹かれます。生のままの魅力にも惹かれますが、相手を慮って、“一手間・一工夫加えること”のおもてなしの心が息づく地域、それが香取の集客・観光・交流の原点にある心意気です。

しかし、あくまでも暮らしが基本。地域を訪れるお客さまに対して極端に迎合するのではなく、市民としての日常の暮らしの延長上に、お越しいただいたお客さまを迎えてみる～まさに“一人二役”を演じることで、地域の賑わいに貢献すること。これがアクションプランの行動規範としての“一人二役一貢献”の意味するところです。

これまで地域の中で意識せずに実践してきた“樽がけの精神”をもって、“本物”にしか醸し出せない地域の輝きを強めること、集客・観光・交流の中で実践していきます。

(2) 目標とする地域の姿と数値目標

年5%前後の観光客入込数の増加を目標

そのために必要な新規顧客開拓とリピーター確保（新規顧客の1/3のリピーター化が目標）

これによって増える経済波及効果は、小野川沿いの町並みだけで約7.3億円/年

①地域容量を勘案しながら、観光客数を持続的に拡大

（特に佐原区からの回遊による小見川・山田・栗源区における観光客数の増加）

香取市において集客・観光・交流の中心となっている「小野川沿いの町並み」の観光客数、およびその観光客が回遊することによって増加をねらう小見川、山田、栗源の集客・観光施設の観光客数を目標数値として設定します。

わが国の人口、国内観光旅行実施率（宿泊旅行実施率）は減少傾向にあり、一定の増加を図ること自体、容易ではない状況です。このような前提を踏まえつつ、香取市における近年の観光客入込数の推移と本アクションプランで位置づけた取り組みの効果発現により、年4～6%程度の増加を目標とします。

なお数値目標として設定する観光施設として、正確な実観光客入込数が把握されている以下を選定しています。

■年間観光客入込数（実数）に関わる現状値と目標値

香取市各地区の 観光拠点	現状の観光客数 平成19～21年 の3カ年の平均		5年後(平成27年) の数値目標	増加率
【佐原区】 小野川沿いの町並み	512千人	⇒	640千人	年4.6%増 5年間で 25%増
水郷佐原水生植物園	101千人	⇒	126千人	
【山田区】 風土村	338千人	⇒	440千人	年5.5%増 5年間で 30%増
【栗源区】 道の駅くりもと	941千人	⇒	1223千人	

注) 小見川区については、イベント等の入込客数データしかなく、今後拠点となる観光施設の特定・データ把握等を検討

②顧客満足度の向上とリピーターの獲得

平成 17 年度「都市観光の推進による地域づくり支援調査業務」、平成 18 年度「香取市中心市街地交流人口等調査業務報告書」等によると、来訪頻度が高い人ほど滞在時間が長くなる傾向が指摘されています。

集客・観光・交流アクションプランの実行により、来訪者の満足度を高め来訪頻度の向上を図っていく、すなわち、再来訪を促しリピーターを獲得し、3 回目、あるいは 4 回以上来訪していただけるようなファンとして定着を図っていくことがねらいとなります。

なお本調査および既往調査（上記香取市中心市街地交流人口等調査の平成 19 年 6 月のデータ）で実施した観光客へのアンケート調査によると、観光客の来訪頻度は以下のように推計されます。

■観光客の来訪頻度の現状

来訪頻度(回数)	観光客に占める割合	
	A:07. 6交流人口	B:10.9本調査
はじめて	48.8%	64.3%
2回目	19.6%	13.3%
3回目	5.5%	6.8%
4回目以上	26.2%	15.6%
合計	100.0%	100.0%

注) A：2007（平成 19）年 6 月に実施した佐原区中心市街地の来街者へのアンケート調査結果（平日、休日それぞれ 1 日調査）に基づき、平日：休日の観光客数（1：2）、日数を考慮して推計

B：本調査の一環として 2010（平成 22）年 9 月に実施したアンケート調査結果（平日、休日それぞれ 2 日調査）のうち、佐原区のデータに基づき、単純平均した数値を掲載

次頁の図は、B のデータに基づいている。

これに基づき、一定の仮定のもと、ビギナー（初来訪者）のうち何%（あるいは何人）がリピーター（再来訪者）になっていくかを推計したものが以下であり、情報発信等のプロモーションにより、ビギナーを増やす＝新規顧客を獲得するとともに、受け入れの品質を高め、この再来訪比率を維持・向上させていくことがねらいとなります。

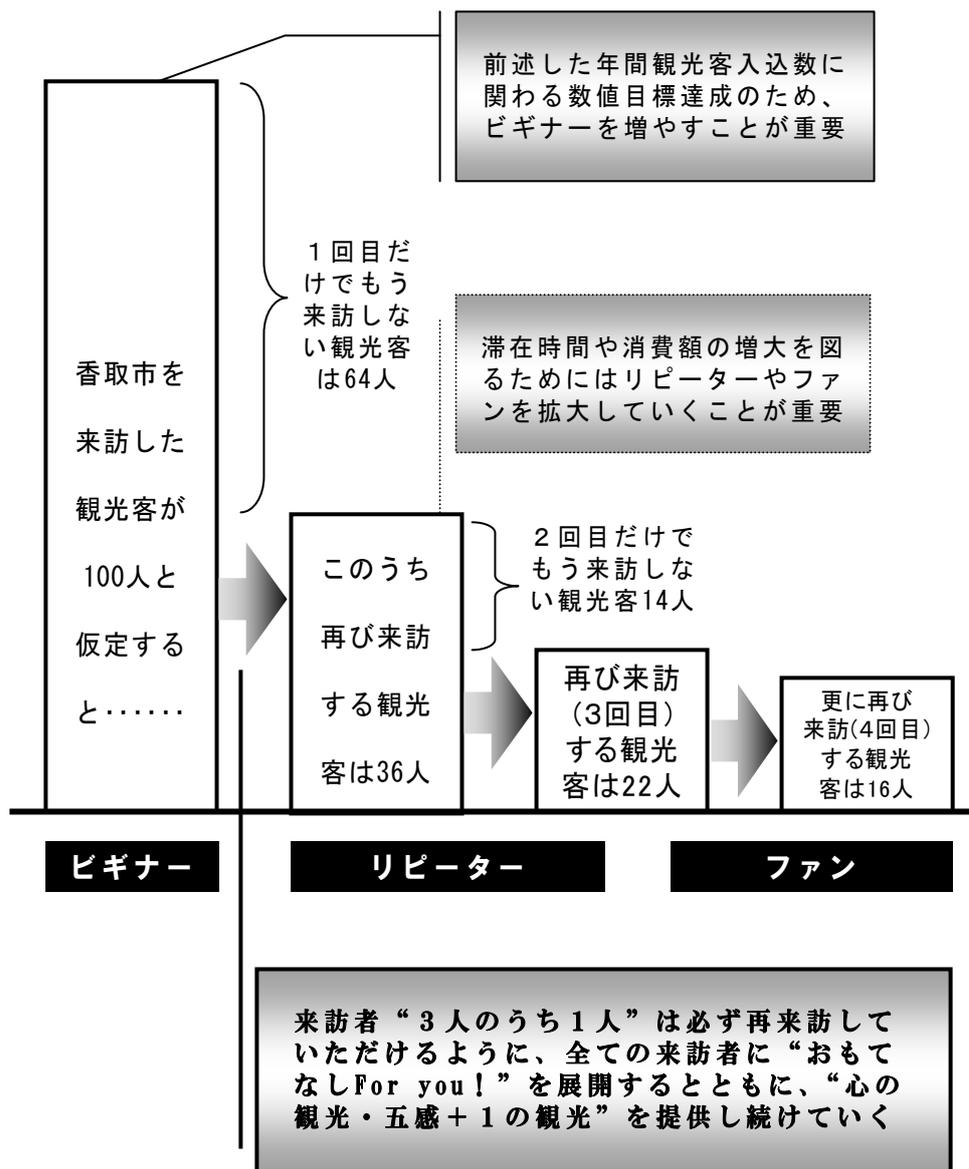
観光客数を持続的に拡大させていくためには、現状以上のリピーター獲得を目指すことが目標となります。すなわち、来訪者“3 人のうち 1 人”は必ず再来訪していただけるように、全ての来訪者に“おもてなし For you!”を展開するとともに、“心の観光・五感+1 の観光”を提供し続けていくことが重要となります。

③滞在時間の延長・宿泊比率の向上

課題（p2）で述べたように、香取市の観光の現状は、宿泊客数は 2 万人程度と少なく、日帰り観光客が大半といった状況にあります。来訪者に香取交流八景を活かした観光や交流をじっくり・ゆっくりと楽しんでもらい、豊かな旅を実感してもらうとともに、地域への経済波及効果を高めていくためには、長時間滞在化と、市内への宿泊を促進していきます。

なお市内への宿泊については、宿泊施設における利用者数自体が現状では把握されていない状況で、数値目標を設定していくためにも、宿泊統計を整備していくことが求められます。

■リピーター・ファンの獲得目標（現時点の数値を最低目標として設定する）



④消費機会拡大による市内経済効果の向上

①～③の目標は、香取市における交流人口を“交流人数×交流時間”ベースで増やすことに他なりません。加えて消費機会を拡大し、地域経済への波及効果を高めていきます。なお①で示したような観光客入込数増加が達成されたとすると、観光客消費のもたらす経済波及効果は次のようになります。

■年間観光客入込数（実数）に関わる現状値と目標値

香取市各地区の観光拠点	現状の消費額		5年後(平成27年)の消費額	5年目のプラス効果	消費単価
小野川沿いの町並み	29.2 億円	⇒	36.5 億円	7.3 億円	5.7 千円 / 人

1-5 アクションプランの基本理念とキーワード・基本方針

(1) アクションプランの3つの基本理念

基本理念① 品格のある地域づくりに向けた集客・観光・交流

多くの人に地域の魅力を知ってもらい、地域を訪れていただきたい。それによって地域の賑わいと活性化を図りたいと願う気持ちはあります。しかし急に脚光を浴びたことで「俗化」への道筋を辿った地域が多くあります。そのプロセスは歩みたくはない。

あくまでも香取の目指す“集客”“観光”“交流”は、人々の暮らしを礎におくものであり、「本物」だけを追求していきたい。『品格ある地域』でありつづけたい。品格なくして地域の永続的な発展は望めません。

アクションプランの第一の基本理念は、『品格』にこだわりつづける地域を目指して、「そこがいい」と心で感じていただける来訪者とも一緒になって、地域を磨きかけていくことです。

基本理念② 誇りと自信をもって、地域の新しい価値を追求しつづける集客・観光・交流

「伝統」は、他を寄せつけない閉塞的な環境の中では綻びを生みます。時代に応じた価値を見出し加えることで、常に新しい光を発するものです。変わらないものは、地域の宝であることへの「誇り」と「自信」をもちつづけること。

香取市の各地域には、市民が誇りと自信(自慢)をもつ地域の宝が数多くあります。地域の宝は目に見えるものばかりではありません。地域の中では気づかずに眠ったままになっている宝もあるかも知れません。地域にとっては、当たり前と感じているものに、来訪者が気づきを与えてくれるかも知れません。

「地域の新しい価値」を追求しつづける気持ちがあれば、地域の中で大切にしている宝や新しい宝が維持・向上・創出されることとなります。

アクションプランの第二の基本理念は、誇りと自信をもって、地域の新しい価値を追求しつづけることです。

基本理念③ 互いの活動を認めあい、感謝しあえる集客・観光・交流

香取市のそれぞれの宝が輝きをみせ、それらが重なり合った時に、集客・観光・交流としての大きな力を発揮します。その宝を支えているのは、まちづくりの活動団体であり市民の力です。

お互いの活動を認め合い、その先に感謝のある地域は、地域磨きに拍車がかかる地域となります。「うちの宝が一番」という自負や誇りは大切です。加えて、連携・ネットワークが加わることで、その魅力は格段に大きなものとなっていきます。連携の基本は「補完と強調」にあります。無いものを補い合うこと、共通するものを重ね合わせてアピールすることです。そのためには「認めあうこと」と「感謝の気持ち」が必要です。

アクションプランの第三の基本理念は、互いの活動を認めあい、感謝しあえる環境をつくることです。

(2) アクションプランの4つのキーワード・基本方針

香取市の魅力をさらに強め、地域全体としての回遊を高め、にぎわいを生み出すためのキーワードは、『記憶の継承』『個々の魅力』『連携・ネットワーク化』『持続可能と一元化』であり、このキーワードに即した4つの基本方針を定めます。

①記憶の継承

～これまでの“当たり前”を大切に、地域の記憶を継承した取り組みを展開する

各地域には、地域ならではの「記憶」があり、それが暮らしの中で継承されていること、このことが地域の個性・魅力であるとともに、新しいことへの取り組みにあたっての活力源となります。アクションプランでは、これまでの“当たり前”にこだわって大切にすることを基本に、地域個性を追求するとともに、地域の記憶に基づいてもてなしの心づくり・環境づくり・しくみづくりを展開します。

②個々の魅力向上・可視化 ～ひとつひとつの取り組みが輝けるよう、地域全体で認め合い、支え合える環境づくり・仕組みづくりを推進する

地域の記憶を支えに地域の宝(個性)の魅力づけを行うことも大切です。新しい原石の発掘・磨きかけを行うとともに、感動を呼ぶプログラムづくりへと展開すること。香取市固有の文化・体験によるプログラムの魅力づけを行うなど、地域の良さを少しでも多く、少しでも長く接してもらい、良き思い出としていただけるようなプログラムづくりに取り組みます。また、そのような集客・観光・交流への主体的な取り組みが、地域住民に対して目に見える形で伝えることも、次の行動を引き出す原動力となります。

さらに、周辺地域に比べて宿泊機能が弱いことから、滞在・宿泊型への観光に向けて、地域の個性を活かした宿泊機能の充実を図るとともに、新しい取り組みに対する支援と仕組みづくりを充実します。

③連携・ネットワーク化 ～人と情報が行き交い、快適に地域巡りできるシステムづくりと個々の活動が重奏する地域を創出する

一つ一つの取り組みには発信力に限界があります。個々の取り組みが連携・ネットワーク化されることで、より地域の魅力が高まるとともに、アピール力も高まります。必要なことは、利用者の立場で考えることです。

そのため、来訪者の玄関口にあたる集客核をゲートウェイと位置づけた機能の充実を図るとともに、情報の受発信の強化や、快適に地域を回遊できるための仕組みづくりを充実します。観光・交流を実践する組織や人の連携のみならず、香取市の強みである豊かな産業間の連携も、地域の魅力を高めることにつながります。

人と情報が行き交い、快適に地域巡りができるシステムを創出することで、集客・観光・交流に関わる市民が主役のまちづくり活動が奏でられる地域を目指します。

④持続的マネジメント ～品格を重んじ、人々の日頃の活動が地域の活力づくりに貢献しえる持続可能な地域を実現する

品格ある地域でありたいとの願いを維持しつづけるには、集客・観光・交流に関わる徹底した品質管理を地域が主体的に行うことが必要です。「一度のお客を一生の顧客にすること」～地域への満足度を高めることは、一見の来訪者をリピーターに、そして香取の魅力を口コミで伝えるファン(地域宣伝者)に、さらには、仲間として集客・観光・交流に関わって地域を支えてくれるサポーターへと展開することにもなります。

最初の一步は、初めてお越しのお客さまを暖かく迎えることから始まります。来訪者の立場にたった受入体制づくり、地域全体としての戦略的地域プロモーションを通じ、より多くの人に香取市の魅力を伝えることを積極的に展開します。

このような取り組みを通じて、香取市全体として、品格を重んじ、人々の日頃の活動が地域の活力づくりに貢献しえる持続可能な地域を実現します。

〔2〕 集客・観光・交流アクションプランの全体像

本章では、先に示した4つの基本方針に基づき、香取の力を結集する1ダースの戦略プロジェクトを設定するとともに、この戦略に基づく36の具体的なアクション（三十六計）の内容について取りまとめます。

2-1 アクションプランの全体構成

本アクションプランは以下の12の戦略プロジェクトで構成します。

【香取の力を結集する1ダースの戦略プロジェクト】

基本方針	1ダースの戦略プロジェクト
記憶の継承	①地域個性の追求 ～地域の集客・観光・交流物語づくり～ ②もてなしの心づくり・環境づくり・仕組みづくり
個々の魅力向上・可視化	③新しい原石の発掘・磨きかけと 感動を呼ぶ文化・体験プログラムづくり ④香取滞在メニューの提示と地域創発商品化 ⑤地域個性を生かした宿泊機能の充実 ⑥新しい取組みに対する支援と仕組みづくり
連携・ネットワーク化	⑦玄関口機能の充実 ～ゲートウェイの形成～ ⑧快適回遊の実現 ⑨産業と連携した集客・観光・交流の魅力創出 ⑩情報の受発信の充実と利用者目線でのネットワーク化
持続的マネジメント	⑪戦略的地域プロモーションとワンストップの受入体制づくり ⑫品質管理の徹底と品格ある地域づくり

■1 ダースの戦略プロジェクトと三十六計（具体的アクション）

基本方針	1 ダースの戦略プロジェクト	三十六計（具体的アクション）	取り組みの内容
記憶の継承	【戦略プロジェクト①】 地域個性の追求 ～地域の集客・観光・交流物語づくり～	1 ◆各地域の暮らし・文化に関わる“お宝”発見とデータベース化	「各地域の自慢」の市民公募等による、地域に眠る“お宝”の発掘とデータベース化、市民による情報共有の促進
		2 ◆各地域の魅力を伝える「地域ものがたり」の編集	地域の歴史や文化、風土等を体系的に整理し、各地域の魅力を伝承するガイドブック「地域ものがたり」として編集
		3 ◆各地域の個性ある魅力・イメージの積極的な発信	観光・交流に関する地域毎の個性的な魅力を大事にし、既往の取り組みを継承しながらプロモーション
	【戦略プロジェクト②】 もてなしの心づくり・ 環境づくり・仕組みづくり	4 ◆次世代の暮らしを担う人材育成ともてなしの演出	伝統芸能の伝承等を通じ、子ども世代に地域の魅力や観光・交流の意味を浸透させるとともに、花壇整備等を通じたおもてなしを实践
		5 ◆“心のバリアフリー（五感+1）”の展開	体の不自由な方等にも香取市での観光を楽しんでもらえるよう、『五感+1』の精神に基づいた質の高いおもてなしの心を普及啓発
		6 ◆市民による観光・交流の実践	自分の地域の魅力を知るため、子ども会での体験プログラムへの参加等、香取市民による香取市観光を推進
個々の魅力向上・可視化	【戦略プロジェクト③】 新しい原石の発掘・磨きかけと 感動を呼ぶ文化・体験プログラムづくり	7 ◆新たなコンテンツの発見・創出	地域資源の集客・観光・交流のコンテンツとしてのリストアップと、その磨きかけ・加工によるプログラムづくり
		8 ◆文化・体験によるプログラムの魅力づけ	「一日商家のおかみ体験」など、“通”な観光客向けの奥深い魅力を体験できる文化・体験プログラムづくり
		9 ◆ウォーキングコース等の設定	既存の集客・観光・交流資源や今後活用が期待される地域資源を総覧し、共通のテーマで括ったウォーキングコースを設定
		10 ◆地域住民との心の交流の拠点となる場の整備	町屋や農家の一隅を活かしたまちなかカフェ・縁側カフェ等の提供、祭り（下座の練習等）を活かした交流の場の創出
		11 ◆各地域の魅力を伝えるガイドの養成とスキルアップ	市民ガイドやインストラクターの育成、市民および香取ファンを対象としたガイド養成講座自体の文化・体験プログラム化
	【戦略プロジェクト④】 香取滞在メニューの提示と地域創発商品化	12 ◆プログラムの組み合わせによる地域創発型商品づくり	多様な文化・体験プログラムの利用促進を図るための「香取お楽しみ時間割」の提示、モデル的な旅行商品造成
		13 ◆モニターツアー等の実施によるブラッシュアップ	考案したプログラムの評価や課題を把握するためのモニターツアーを実施し、より参加しやすく魅力的なプログラムへと改良
	【戦略プロジェクト⑤】 地域個性を生かした宿泊機能の充実	14 ◆「町屋ステイ」の推進	空き家となった町屋を活用し、伝統的な暮らしを体験できる宿泊施設として整備・運用（泊まること自体の目的化）
		15 ◆廃校舎等の宿泊研修施設としての活用	廃校となった校舎等を活用し、多様な体験や交流の拠点となる研修宿泊施設として整備・運用
	【戦略プロジェクト⑥】 新しい取り組みに対する支援と仕組みづくり	16 ◆主体的地域活動の可視化・相互連携と行政との協働体制の継続・強化	集客・観光・交流に関わる市民による取り組みの情報公開と、相互連携のための場・機会の提供
17 ◆大学や専門家、香取サポーター等との応援体制づくり		大学や専門家、その他外部サポーター等との連携強化による、市民主体の様々な取り組みのバックアップ体制づくり	
連携・ネットワーク化	【戦略プロジェクト⑦】 玄関口機能の充実～ゲートウェイの形成～	18 ◆交通結節点としての機能強化と認知度向上	路線やダイヤ調査等による、高速バス、市内循環バス等への乗換機能の強化、ゲートウェイとしての情報の積極的な発信
		19 ◆ゲートウェイ間の情報の共有化（ゲートウェイ協議会の設置）	イベント等に関する情報共有や企画調整、来訪者の属性データの共有化等を目的とした「ゲートウェイ協議会」の設置等
		20 ◆香取市全体の総合観光情報の発信	デジタルサイネージ等を活用した香取市全体の観光情報の発信、文化・体験プログラムの申し込み等もできる案内窓口の設置
	【戦略プロジェクト⑧】 快適回遊の実現	21 ◆循環バスや舟運等の連携と利便性向上	循環バスのルート拡充や運賃体系の見直し、新たな船着場の整備等による水上交通体系の構築、観光乗り合いタクシーの導入等
		22 ◆レンタサイクルシステム・サイクリングコースの充実	レンタサイクルステーションの増設、電動アシスト付自転車の導入、多様なサイクリングコースの設定とマップづくり等
		23 ◆安全・安心の巡り歩き環境の整備	まちなかや集落内を安心して楽しく巡り歩くことができる交通環境の整備
		24 ◆町巡りバスポート・共通乗車(舟)券の発行	各種特典が設けられた町巡りバスポートや、多様な公共交通機関の相互利用が容易となる共通乗車券等の発行に向けた取り組み
	【戦略プロジェクト⑨】 産業と連携した集客・観光・交流の魅力創出	25 ◆ものづくりとの連携による体験プログラム化	佐原張子や佐原和傘、酒、醤油など、香取市の伝統工芸や製造業の文化・体験プログラムとしての活用
		26 ◆「食」を活かした地域連携の促進	地域の農産物等を活用した地産地消の「食」の開発・提供による観光・交流の魅力向上と地域連携の促進
		27 ◆「農」や「自然」を生かした交流居住の促進	山田・栗源等における、自然と共生した暮らしを体験できるグリーン・ツーリズムのプログラムづくりと二地域居住、定住促進
【戦略プロジェクト⑩】 情報の受発信の充実と 利用者目線でのネットワーク化	28 ◆ホームページやデジタルサイネージ等の有効活用	観光情報を紹介する既存のホームページの役割の明確化とリンク化、市民情報員との連携等による情報更新の体制づくり	
	29 ◆利用者の立場に立った情報伝達	紙媒体はもとより、メルマガの配信、携帯サイトやツイッターの活用等、ニーズに応じた様々な媒体による情報を発信	
	30 ◆香取ファンとの“心の交流”の展開	「香取ファンクラブ」を結成し、ファンクラブ会員のみを対象とした会員特典を設けることによる再来訪のきっかけづくり	
持続的マネジメント	【戦略プロジェクト⑪】 戦略的地域プロモーションと ワンストップの受入体制づくり	31 ◆「香取を有名にする」戦略的プロモーションの共同展開	香取市全体のプロモーションを担う組織の明確化と、各種メディアを活用した戦略的プロモーションの展開
		32 ◆外国人観光客の誘致プロモーションの展開	日本ならではの町並みや伝統文化を体験できるコースの設定と、発地側でのセールスプロモーションの展開
		33 ◆観光コンシェルジュ・まちづくり事業体の形成	着地型旅行商品のプロデュースとプロモーション、様々なマネジメントを担う、自立経営型の観光まちづくり事業体を形成
	【戦略プロジェクト⑫】 品質管理の徹底と品格ある地域づくり	34 ◆定期的な顧客満足度調査の実施	定期的な顧客満足度調査を実施し、観光客入込数等の客観的データと照合して取り組みの効果と必要な改善点を検証
		35 ◆苦情情報の共有化と的確な対応～“ピンチをチャンスに運動”の展開	アンケートやホームページへの書込等、積極的にクレーム情報を収集・共有し、改善に繋げることによりクレーマーを香取ファン化
		36 ◆各種取り組みをマネジメントする人材の育成・登用・派遣	各地域の取り組みの円滑な推進、観光・交流の魅力の維持・向上等を担うマネージャー・総合プロデューサーの育成・登用と専門家派遣

2-2 香取の力を結集する1ダースの戦略プロジェクトと三十六計

基本方針
記憶の継承

基本方針
個々の魅力向上・可視化

基本方針
連携・ネットワーク化

基本方針
持続的マネジメント

①地域個性の追求 ～地域の集客・観光・交流物語づくり～

<主旨・ねらい>

- 「香取」を広くアピールすることが、集客・観光・交流の基本です。しかし一方で、地域個性を束ねることは、逆にイメージを薄めることになりかねないことから、個々の地域のこれまでの取り組みを継承し、地域の魅力を際立たせてアピールすることが効果的な情報発信につながります。
- 香取市の各地区、各集落において、水郷や里山といった身近な自然との共生をベースとした地域社会の成り立ちと、特色ある地域文化を培ってきた郷土史などを地域住民自ら再確認するとともに、地区、集落ならではの地域資源や継承されてきた生活文化に着目し、観光や交流の目的となる地域の物語を組み立てていきます。
- このような取り組みの中で、地域の営みを支えている身近な自然や歴史・文化を見直し、地域の財産として継承していく心を育てるとともに、受け入れ体制を整えていくこと、および来訪者に地域の魅力を伝達する等、市民協働の拠り所としていくことがねらいとなります。

<具体的アクション（三十六計）>

①-1 各地域の暮らし・文化に関わる“お宝”発見とデータベース化

- ・ 「各地域の自慢」を市民から募集したり、集落やコミュニティ単位で、身近な自然の魅力、その恩恵を活かす暮らしの知恵や技等の掘り起こしや、地域の歴史・文化について学習するワークショップを継続的に開催するなどし、地域に眠る交流資源となり得る“お宝”を発掘するとともにそのデータベースを作成します。
- ・ 地域の四季折々の魅力やあまり知られていない魅力を発掘する試みとしては、市民からお気に入りの場所の写真を募集する「香取百景フォトコンテスト」や、地域の風物等を詠んだ俳句や川柳を募集する「香取俳句・川柳コンテスト」を実施することも考えられます。選定された写真や俳句・川柳については観光マップに掲載するなど、地域の魅力を伝えるツールとして有効に活用することが可能です。
- ・ また、発掘した“お宝”については、資源に関する情報を掲載したシリーズ化された名刺大のカードを作成し、来訪者が興味対象に応じてカードを選択し、まち巡りに活用できるようにすることも考えられます。

■香取市における先行的な取り組み

NPOかとり宮中機微の会による香取の杜活性化プロジェクト

2600年の歴史を誇る東国一宮香取神宮を中心とする香取神宮周辺地域の魅力を高め、香取市全域の集客と回遊性を高める一拠点を
目指し、資源調査やマップを作成している。



基本方針
記憶の継承

基本方針
個々の魅力向上・可視化

基本方針
連携・ネットワーク化

基本方針
持続的マネジメント

①地域個性の追求 ～地域の集客・観光・交流物語づくり～

■他地域での参考となる取り組み

百景コンテストによる資源の発掘

石川県野々市町では、野々市町内の歴史やユニークなスポットなどを撮影し、ポータルサイトへ投稿してもらう「野々市なんでも百景コンテスト」を実施している。



夕映え

宮波 正行

雪の積もった土手の間を、黄金色に輝く用水が流れていく。水面の波が反射を繰り返している。冬のモノクロの世界を彩って走る用水は、古代から手取川扇状地にもたらした豊穡の恵みを「市人」に、こどもも約束しているようである。



雪とビルとツバキ

ル1

高橋川のもとのある「せせらぎ公園」の橋である。橋に積もった雪から顔を出しているのが可愛さを引き立てている。パノックに見えるのは金沢工業大学のライブラリーセンターであるが、もう少し周辺の公園を入れてほしい。

カードによる観光資源の紹介

愛媛県の南予地域では、地域に存在する観光資源をカードにして紹介しており、現在 111 の資源が紹介されている。



①-2 各地域の魅力を伝える「地域ものがたり」の編集

- ・ 地域の資源や魅力を再発見し、それを市民全体で共有化する取り組みとして、佐原、小見川、山田、栗源の各地域の歴史や文化、風土、暮らし、地域の偉人等を体系的に整理し、地域の魅力を伝承するガイドブック「地域ものがたり」として取りまとめます。
- ・ また、取りまとめた「地域ものがたり」をもとに、イベント的に「ご当地検定」を実施し、楽しみながら地域を知ってもらうような取り組みを実施することが考えられます。「ご当地検定」には、現地に行けば確認できるような設問を設け、まち中の隠れた“お宝”にも興味を持ってもらえるような内容とすることが効果的です。
- ・ また、市内の祭礼やイベントの開催情報を「香取交流ものがたりイベントカレンダー」として取りまとめ、内外に広く情報発信するとともに、似たようなイベント同士の広域連携等を促進し、イベントの魅力向上や来訪者の市内回遊の促進、市内滞在時間の延長を目指します。

①地域個性の追求 ～地域の集客・観光・交流物語づくり～

■他地域での参考となる取り組み

ご当地検定による地域の隠れた魅力の再発見

神奈川県小田原市では、まち歩きや地域の食を味わう楽しみを付加したご当地検定「小田原まちあるき検定」を実施している。机上の試験ではなく、まちを歩き、自分の目で名所旧跡などを確かめながら学ぶことから参加者にも好評を得ている。



①-3 各地域の個性ある魅力・イメージの積極的な発信

- ・ 集客・観光・交流に関わる魅力は、佐原・小見川の水郷エリアと、山田、栗源の源流エリアではもとより異なり、また各地区でも固有の魅力を有しています。これらを合体して「香取市」のイメージを新たにつくり、売り込むことよりも、前述したような地域毎の魅力伝えるガイドブック等に基づき、個別の地域の魅力を訴求していくことが、固有の魅力を際立たせていくことにつながります。
- ・ 集客・観光・交流に関わるプロモーションにあたっては、「佐原」「小見川」「山田」「栗源」といった、各地域イメージやそれぞれの自然・歴史に拠って立つ文化を的確にユーザーに発信していくことを基本にします。
- ・ このため、各地区でのこれまでの取り組みを大切にしながら、それぞれの地区の魅力を表現するキャッチコピーの見直し（上記各地区の魅力の差違が、対比的に明確になるようなキャッチコピーの考案）を図るとともに、「佐原@香取」といったように、各地区を前面に出したPRを展開していきます。
- ・ また観光パンフレットやホームページの構成についても「地区別案内」を重視していきます。
- ・ 交通事業者や旅行事業者などへの営業活動についても、必ずしも横並びで実施するのではなく、各地区の魅力や売りになる季節等に応じて、独自の工夫・努力で取り組んでいくことも望まれます。

②もてなしの心づくり・環境づくり・仕組みづくり**<主旨・ねらい>**

- ▶ 香取市への来訪者が、地区毎に特徴のある自然や歴史・文化を体験したり、そこで営まれている暮らしの体感や地域の人々との心の触れ合いを通じ、地域での観光を“記憶”としてではなく“思い出”として持ち帰っていただけるようにするためには、受入側の市民がおもてなしの心をもって来訪者を迎え入れることが重要となります。
- ▶ 集客・観光に関わる事業者や観光事業者はもとより、市民ひとりひとりのホスピタリティの醸成を図り、おもてなしの体制を整えていきます。
- ▶ 本地域の特色である祭り等伝統行事・芸能およびその他地域文化の継承を図るため、学校等を通じた、子ども達への教育を進めるとともに、その練習風景や発表の場が、来訪者等との交流を生み出すようなしくみづくりを行います。

<具体的アクション（三十六計）>**②-1 次世代の暮らしを担う人材育成ともてなしの演出**

- ・ 佐原区では、学校教育において佐原大祭の下座の練習を取り入れるといったユニークな取り組みが行われています。他地区においても、学校教育のなかで祭りや伝統芸能の伝承等を行うとともに、その練習成果の相互発表の機会や、校外（まちなかやイベントなど）で演じる場を設け、子ども世代に地域の魅力や観光・交流の意味を浸透させていきます。
- ・ また、先に示した「地域ものがたり」や「ご当地検定」等を活用し、教育委員会等と連携しながら、学校教育を通じて子ども達に地域の魅力を知ってもらう取り組みを推進します。
- ・ さらに課外活動や総合学習、環境学習の一環として、観光ルートの沿道における花植えや花壇整備等を行い、もてなしの心の育成と景観によるもてなしの演出を図っていきます。

■香取市における先行的な取り組み**NPO法人まちおこし佐原の大祭振興協会の取り組み**

佐原の大祭を彩る音色として欠かせない佐原囃子の保存・伝承・啓発に力を入れ、佐原囃子を演奏する下座連をのせた「下座舟」を小野川で運行する他、CD・DVDの作成、市内外の小中学校の郷土芸能部への指導を行っている。

②もてなしの心づくり・環境づくり・仕組みづくり

■他地域での参考となる取り組み

もてなしの心を育む宮崎県や大分県における観光教育への取り組み

宮崎県では、観光教育の一環として子ども向けの『宮崎副読本・わたしたちができることってなあに?』を作成し、全県下の小学校4年生から中学生に配布している。

大分県湯布院（由布市）では、中学生用の教材『ゆふいんの子どもたちに贈るまちづくりの本』として、本多静六先生の講演要約を英文併記で掲載したものを作成し配付している。

The image shows a collection of educational materials for children. On the left is the cover of a book titled 'わたしたちができることってなあに?' (What can we do?). To the right are several informational cards. One card is titled '観光の効果って?' (What are the effects of tourism?) and lists benefits like '観光客が宮崎県に寄るもの' (Things tourists bring to Miyazaki Prefecture) and '観光は町をきれいにしてくれる' (Tourism keeps towns clean). Another card is titled '調べてみよう!' (Let's investigate!) and asks '観光についてもっと考えてみよう!' (Let's think more about tourism!). The cards include illustrations of children and various icons related to tourism and local products.

②-2 “心のバリアフリー（五感+1）”の展開

- ・ 体の不自由な方や外国の方にも香取市での観光を十分楽しんでもらえるようにするため、視覚だけでなく音や香りなど全ての感覚を使って感覚を通じて香取の魅力を感じてもらおうとともに、ゆったりとした時間の流れ、心に残る地元の人との交流など、訪れる人ごとにかたちの異なる満足感を持って帰ってもらえるようにするという『五感+1』の精神に基づき、質の高いおもてなしの心を普及啓発していきます。
- ・ また高齢者や体の不自由な方が円滑に香取市内の旅行ができるように、市民活動団体等による市内観光施設や交通に関するバリアフリー環境の調査とマップ情報化、車椅子操作の補助、家族の介護補助等に取り組むことも考えられます。

■香取市における先行的な取り組み

やまだ元気隊・伽瑠茶倶楽部によるバリアフリー農作業体験

やまだ元気隊・伽瑠茶倶楽部では、「山田発・農からはじまる心のバリアフリーツアー」と称して障がいのある子どもを対象とした農作業体験を実施している。



基本方針
記憶の継承

基本方針
個々の魅力向上・可視化

基本方針
連携・ネットワーク化

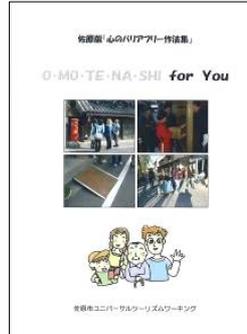
基本方針
持続的マネジメント

②もてなしの心づくり・環境づくり・仕組みづくり

■香取市における先行的な取り組み

佐原区における「佐原版『心のバリアフリー作法集』」の作成

佐原区では、まちの人々の参画のもと、おもてなしのマニュアルを作成し、共有している。マニュアルの中では、日常にお客さんと接しているおかみさんの体験談や、旧家に代々伝えられる商売の家訓などを現代によみがえらせるなど、地域独自のおもてなしの充実を目指して取り組んでいる。



（おかみさんの知恵袋）

○「どこからお見えになりましたか？」とお話することが会話のきっかけになります。またお客様が住まわれている地域に行ったことがあれば、「〇〇はみんがよいところですよな」と一言付け加えると、より身近に感じてもらえ、会話が弾みます。

○お話をされるお客様はシニアの方が多いので、「ノスタルジック」なお話をすると興味をもたれます。

○社務のあるお客様には、できるだけお返の中を案内するようにしています。ツアー等で集合時間があるお客様は、お預りいただいたお会計書なども急がれます。現在は消費税の関係からどうしても複数が出てしまうので、会計を簡便化できるように考えたいと思っています。

○佐原には「伊能家の家訓」があり、佐原はこの家訓に則してまちづくりを進めていると思います。佐原を始めた全てのお客様に満足していただく上でも非常に参考になると思います。



（伊能家家訓）
第一、 飯にも魚をせず、孝悌忠信にて、
家庭を治めよ。
第二、 身の上の人は別論、身下の人にして、
教訓真見あはれ、急度難用い守く守べし。
第三、 悪徳謀謀にして、淫道悪法を度外にして、
謀り謀み、争も人と争論など成すべからず。
天、九月二十一日
電話三三三、一五五上原

<http://www.okajima.or.jp/kashimushu.html> 右は飯野氏家訓が現代的に訳したもので

佐原おかみさん会とまちぐるみ博物館の取り組み

個店や家庭に眠っていたお宝を活用した「まちぐるみ博物館」を運営するにあたり、運営主体である「佐原おかみさん会」では、展示品ラインナップ、新たな展示品の登録、展示方法、広報ツール・PR等の他、“来館者をもてなす際の留意点”“来館者の生の声の把握とそれを活かしたおもてなし向上”について取り決め、「佐原まちぐるみ博物館口伝帖」として伝えている。



■他地域での参考となる取り組み

バリアフリーツアーを支援する市民活動団体の例

伊勢志摩バリアフリーツアーセンターは、伊勢志摩に遊びに行きたい！という障がい者や高齢者の旅行者に、伊勢志摩の観光施設や宿泊施設、飲食施設、交通機関、トイレなどのバリアフリー観光情報を発信するとともに、車椅子の無料貸し出し、鉄道駅における各種案内等を実施している。

またこうしたハンディをかかえた方、および同伴者の旅の負担を軽減するため、入浴の介護サービス等の提供も検討している。

②-3 市民による観光・交流の実践

- ・ もてなしの心を醸成する上では、まず地域の人々が自分たちの住んでいるまちの魅力や文化を「知る」ことから始める必要があります。そこで、自分の地域の魅力や良さを知ることが目的に、子ども会での市内の体験プログラムへの参加など、市外からの来訪者だけを対象とするのではなく、香取市民による香取市観光を推進していきます。

③新しい原石の発掘・磨きかけと感動を呼ぶ文化・体験プログラムづくり

<主旨・ねらい>

- ▶ 今でこそ年間 50 万人以上の観光客を迎える佐原のまちなか（小野川沿いの町並み）は、かつて観光地と呼ぶにはほど遠かったところです。それが伝統的建造物という資源を磨き上げ、地域の生活文化を活かすなど、優秀観光地づくり賞金賞として高く評価される取組みにより、現在の魅力をつくりあげてきています。香取市内のまちや集落がもつ、こうした集客・観光・交流のための地域資源はまだ多数潜在しているものと考えられます。
- ▶ このような地域資源を掘り起こし、観光客等の興味対象となり、感動体験が得られるようなプログラムとして活かしていくことが重要となります。なお地域資源の性格やポテンシャルにより、多数の観光客が訪れる集客・観光拠点として活用する方向と、まずは特定のターゲットを想定して、じっくり交流を育んでいく方向等を選択しながら、戦略的に取り組んでいくことが肝要です。
- ▶ このような地域資源の活用にあたっては、その背景にある歴史や文化を的確に観光客に伝えたり、暮らしに関わる体験を指導するガイドやインストラクターが不可欠です。内外の観光客を対象にした歴史的町並みのガイド（通訳ガイド）等に先行的に取り組んでいるNPO法人小野川と佐原の町並みを考える会や香取市国際交流協会をはじめ、市内では多様な市民活動団体による文化・体験プログラムの提供が始動しており、今後も市民および域外の香取ファンによるガイドの育成とスキルアップを図っていきます。

<具体的アクション（三十六計）>

③-1 新たなコンテンツの発見・創出

- ・ 地域住民にとって日常で当たり前の資源（モノやコト）が、地域外からの来訪者にとっては大変魅力のある宝物となることも少なくありません。先に示した地域の“お宝”発見の取組みを通じ、こうした資源を掘り起こし、集客・観光・交流のコンテンツとしてリストアップするとともに、専門家の視点も交えながら、その活用方法について検討していきます。
- ・ このようにリストアップされた素材を磨きかけ・加工することで、来訪者を感動させるような香取ならではの体験プログラムづくりを行います。

■香取市における先行的な取組み

栗源・沢小学校周辺地域における「農村ギャラリー」化

廃校となった沢小学校を交流拠点としながら、周辺の農村地域を舞台とした「農村ギャラリー」化に向けて、地域資源の掘り起こしと、活用に向けたワークショップを継続的に実施している。



基本方針
記憶の継承

基本方針
個々の魅力向上・可視化

基本方針
連携・ネットワーク化

基本方針
持続的マネジメント

③新しい原石の発掘・磨きかけと感動を呼ぶ文化・体験プログラムづくり

■他地域での参考となる取り組み

着地型の観光プログラムづくり

わたらせ渓谷鐵道沿線の群馬県桐生市、みどり市、および栃木県日光市の足尾地区では、平成 20 年度に関東運輸局の観光まちづくりコンサルティング事業の指定を受け、市民参加のワーキングで検討を行い、「郷愁（ノスタルジー）」という3つの地域に共通する観光まちづくりの連携テーマを設定するとともに、抽出した素材を組み合わせることで、17の着地型観光プログラムについて検討を行っている。



郷愁プログラム②（桐生）
着物で巡る“東の桐生”織物文化

着物着付け体験
地元の特産であった「お召し」と「銘仙」の街着を着て、着物の似合うまちと、着物の似合うお店でのお食事をお楽しみください！
問合せ：NPO法人桐生産地乃店（0277-43-3150）
開催日：毎月第一土曜日
（5名以上の団体はその後の土曜日も可）
料 金：1人 2,500円（着付け料含む）

織物文化巡り/織物・藍染体験
ノコギリ屋根の建物が200以上も残る桐生のまち中股塚、織物参考館・紫での織物・藍染体験をお楽しみください！
コース：①ノコギリ屋根めぐり
②有期製めぐり
③あーとほーる製めぐり
④染物館と高野地蔵めぐり
問合せ：NPO法人桐生産地乃店（0277-47-0414）
開催日：連年
料 金：1人 500円（施設入館料・体験料含む別途）

③-2 文化・体験によるプログラムの魅力づけ

- ・ 香取神宮、水郷（水郷佐原水生植物園等）、佐原のまちなか（小野川沿いの町並み）等提供している既存の観光体験について、花の時期や町並みの美しさを売り物にするだけでなく、江戸優りともいわれる町並み形成の歴史やその中で継承されてきた暮らしの知恵と技術等を生かし、歴史的町並み等を舞台とした生活文化体験プログラム等、“通”な観光客や、日本の文化に興味を持つ外国人観光客向けの奥深い魅力を体験できるプログラムづくりを行います。
- ・ これは、滞在時間の延長やリピーターの確保、また通り一遍の観光では飽き足りない、好奇心旺盛な観光客や、香取市に興味を持つファンの満足度を高めるねらいもあります。（具体的なプログラム例）
 - 和菓子づくり体験、節句料理づくり体験、佐原張子等の伝統工芸の創作体験
 - 日本舞踊・三味線・華道・茶道体験
 - 商家レストランでの文化・芸術・音楽と食の融合イベント
 - 山車曳き等のお祭りへの参加、佐原囃子体験、小野川下座舟体験
 - 一日商家のおかみ体験

■香取市における先行的な取り組み

NPO 娑婆羅による「きもので楽しむ佐原の町並み体験」

NPO 娑婆羅では、江戸情緒いっぱいの町並みを舞台に、観光客が気軽に着物の文化にふれあうことができる機会として、着物でそぞろ歩く体験イベントを実施している。その一部は、NPOかとり宮中機微の会やNPO法人小野川と佐原の町並みを考える会とも連携し、香取神宮を散策する機会も提供している。



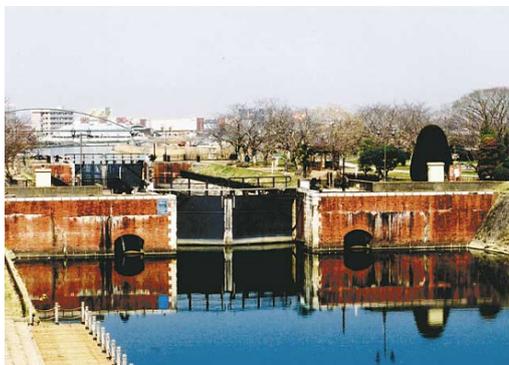
③新しい原石の発掘・磨きかけと感動を呼ぶ文化・体験プログラムづくり

③-3 ウォーキングコース等の設定

- ・ 既存の集客・観光・交流資源や今後活用が期待される地域資源を総覧し、共通のテーマで括ったウォーキングコースを設定したり、路地や水辺沿いの魅力を探訪するコースを設定していきます。
- ・ 近年では、森林や田園地帯、古い町並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩く、“フットパス”といわれる小道の整備・確保と、それを観光・交流に活かそうとする取組みが各地で始められています。フットパスの発祥の地であるイギリスでは、フットパスが国土を網の目のように縫い、国民は積極的に歩くことを楽しんでいきます。
- ・ 香取市においても、このように地域の産業や暮らしを支えてきた環境や、現状の地域住民のありのままの営みを垣間見るとともに、地域住民とふれあうことができるようなコースの設定を図っていきます。
- ・ コース沿いの町並みや集落においては、地域住民が主体となって、後述するようなまちなかカフェや縁側カフェ等の提供、来訪者への肩をはらないお声かけや会話のすすめなど、交流育成に取り組んでいきます。

(具体的なウォーキングコース・フットパス例)

- 横利根閘門と水辺の“近代化遺産観光”コース
(水の郷さわらを起点とした新たなウォーキング&舟運活用コース)
- 水辺の環境とエネルギーを考える“学習観光コース”
(水郷の水を生かした水車による水力発電の観光利用等)
- 目的別パワースポットの発掘・パワースポットを巡る“祈りのコース”
- 里山や農村集落の魅力を堪能する“里山フットパスコース”
- まちなかの路地や横丁を探訪する“ウォーキングトレイル”



水辺の環境と一体となった産業遺産・近代化遺産が市内には点在（左：横利根閘門、右：橋ふれあい公園橋堤）

③新しい原石の発掘・磨きかけと感動を呼ぶ文化・体験プログラムづくり

③-4 地域住民との心の交流の拠点となる場の整備

- ・ 来訪者と地域住民が憩い、自然と交流が生まれるような場として、まちなかの道路や隣接空地等の公共空間を活かしたオープンカフェをイベント的に開設したり、町屋や農家の一隅を活かし、常設または仮設のまちなかカフェ・縁側カフェ等のスペースとして提供していく取組みを推進します。
- ・ また遊休施設（空き店舗等）を活用しながら、まちなかや集落のなかに、地域のお祭りの練習（例えば佐原の大祭の下座の稽古）の場や、地域のコミュニティが共同で行う年中行事等の場を設け、それらを来訪者にも公開しながら、祭事開催時以外でも本地域の祭りの活気や文化が味わえるようにしていくとともに、そこで来訪者と地域住民との交流育成を図っていきます。

■他地域での参考となる取組み

まちなかや農村部において、住民等が観光客等との交流の場として提供しているカフェスペースの例

まちなかカフェ（長野県飯山市）

歴史的町並み・愛宕町の歩行者空間化と町屋の土間を使った休憩スペースの提供。町並み修景への取組みを進めながら、年数日、花のガーデニングコンクールとあわせてイベント的に展開している。



縁側カフェ（山梨県甲州市）

フットパスの利用者に対して、農家の軒先を使って茶菓を提供するとともに、住民との語らいの場としている。



③新しい原石の発掘・磨きかけと感動を呼ぶ文化・体験プログラムづくり

③-5 各地域の魅力を伝達するガイドの養成とスキルアップ

- ・ 来訪者が楽しく回遊し、香取市に対する理解を深め、香取市の魅力を十分満喫してもらえるよう、地域の歴史や文化、産業等に精通し、人を惹きつける話術を備えた市民ガイドやインストラクターの育成を進めます。
- ・ NPO法人小野川と佐原の町並みを考える会、香取市国際交流協会等、多様な市民活動団体がまちあるきガイドや通訳ガイド（後継者）の育成に独自に取り組んでおり、こうした活動を支援するとともに、関心をもつ市民や域外の香取ファンが参加しやすくなるよう、必要な環境整備や情報提供を図っていきます。なお通訳ガイドについては、英語だけではなく、中国語やハングル語等に対応した人材の確保・養成に取り組んでいきます。
- ・ また市民および香取ファンを対象とした、ガイド養成講座自体をひとつの文化・体験プログラム化していくことも考えられます。
- ・ なお、文化・体験プログラム提供を持続化させ、ガイド等の意欲を高めていくため、プログラムの有料化と、ガイドやインストラクターへの報酬導入を検討していきます。そのためには、料金設定に対する考え方やルールを設定するとともに、観光客が対価を支払っても満足感（＝感動）を得られるように文化・体験プログラムの質を高めることや、ガイド・インストラクターの技術向上につとめます。

■香取市における先行的な取り組み

NPO法人まちおこし佐原の大祭振興協会による「佐原の大祭・お祭りガイド」の育成

NPO法人まちおこし佐原の大祭振興協会では、佐原の大祭の魅力を高めるとともに、来街者との交流を深め更なる集客につなげるため、佐原の大祭の奥深い魅力を伝えるためのガイド研修と研修修了者によるガイドの実践を行っている。



■他地域での参考となる取り組み

ガイドツアーや体験プログラム提供を支える市民インストラクターの導入

長野県飯山市では、ブナ林の残る豊かな自然豊かな環境や、千曲川にそって広がる田園地帯・棚田等の原風景を活かし、自然体験や各種アウトドアレクリエーション、ロングトレッキング、田舎体験といった各種プログラムを提供している。

これらの体験プログラムは、自然や暮らし、アウトドア等に関して知識や技術を要する市民インストラクターが、ガイドや指導者として支えている。市民インストラクターは、市内だけでなく、市外（例えば長野市）からも登録があり、現在200人近くにのぼっている。

なお飯山市では、これらの体験プログラムを有料で提供しており、ガイドには報酬（6,000円/日程度）が支払われる。

基本方針
記憶の継承

基本方針
個々の魅力向上・可視化

基本方針
連携・ネットワーク化

基本方針
持続的マネジメント

④香取滞在メニューの提示と地域創発商品化

<主旨・ねらい>

- ▶ 多様な文化・体験プログラムの利用促進を図るため、各プログラムの実施期間や場所、体験時間等を体系的に整理し情報提供するとともに、プログラムを組み合わせたモデル的な旅行商品づくりを行い、その流通化を目指します。
- ▶ また、モニターツアー等を実施し、より参加しやすく魅力的なプログラムとなるようにブラッシュアップしていきます。

<具体的アクション（三十六計）>

④-1 プログラムの組み合わせによる地域創発型商品づくり

- ・ 香取市内で提供される文化・体験プログラムを利用し、まる1日、あるいは1泊2日どのように観光・交流を楽しむことができるか、日程表を「香取お楽しみ時間割」としてモデル的に示し、パンフレットやホームページで情報発信します。
- ・ 例えば、小野川周辺の町並みを散策したあと「だいぶ時間が余ったけれど、何かすることがないかな」「昼食や夕食まであと1時間あるな」と観光客が思った時に、今どのような文化・体験プログラムができるか、探すヒントになるような材料であるとともに、「こんなことができるんならば、ちょっと他に廻ってみようかな」あるいは「泊まってみようかな」と思わせるような内容とします。

■他地域での参考となる取り組み

阿寒湖温泉で提供されている「あなたがつくる時間割」

阿寒湖温泉には、ユニークな自然やアイヌ文化など、様々な楽しみがあり、観光客がそこでどんな楽しみ方ができるか、「時間割」としてまとめている。



基本方針
記憶の継承

基本方針
個々の魅力向上可視化

基本方針
連携・ネットワーク化

基本方針
持続可能と一元化

④香取滞在メニューの提示と地域創発商品化

- ・ また、香取市内で提供する文化・体験プログラムを一定のテーマや、外国人観光客も含めた想定するターゲットのもとで組み合わせ、旅行行程やモデル的な旅行商品を組み立てるとともに、旅行会社や交通事業者への売り込みを通してその流通化を目指します。
- ・ さらに、「水郷三都観光推進協議会」等の取り組みを踏まえた、鹿嶋市や潮来市の集客・観光・交流資源との連携につとめ、より魅力の高い旅行商品の造成・流通促進を目指します。

■他地域での参考となる取り組み

プログラムの組み合わせによるモデル的な旅行商品の造成

先に示したわたらせ地域での取り組みでは、設定した 17 の体験プログラムを組み合わせ、「『絹』と『銅』のまち ノスタルジー紀行」というツアー名のモデル的な旅行商品を組み立て、モニターツアーを実施している。

ツアー行程

出発	7:40
上野駅集合	(9:00)
新幹車	9:15
相生観光(昼食)	1時間15分
相生	13:30
1つ橋	(13:50)
大宮	13:55
大宮駅観光	1時間15分
大宮	17:00
1つ橋	(17:40)
船戸	17:45
2日(サンライズ夜乗車)	
富山県新穂観光 0.5時間	
高橋屋・宇治光(昼食)	1時間
船戸	12:30
1つ橋	(13:00)
足尾	13:50
足尾観光(昼食)	1時間15分
足尾	17:00
1つ橋	(18:30)
日光	17:30

絹をじっくり見たい人は

出発	7:40
上野駅集合	(9:00)
新幹車	9:15
相生観光(昼食)	1時間15分
相生	13:30
1つ橋	(13:50)
大宮	13:55
大宮駅観光	1時間15分
大宮	17:00
1つ橋	(17:40)
船戸(サンライズ夜乗車)	

④-2 モニターツアー等の実施によるブラッシュアップ

- ・ 構築した地域創発型商品をイベントやモニターツアーとして実際に提供しながら、その評価や課題を把握し、より参加しやすく魅力的なプログラムとなるよう必要な改良を行います。
- ・ モニターツアーでは、先に設定したモデル的な旅行商品に沿って行い、実施した各プログラムの良かった点や改良すべき点を記述してもらいアンケート調査を実施し、その結果を「モニターツアー通信簿」等として取りまとめ、評価を共有することが効果的です。
- ・ モニターツアーでは、受入態勢の如何や負担に対する住民の評価等についても検証します。「(仮)地域ぐるみフィールドキャンパス事業」等と銘打って、地域の多様な市民活動団体、住民が参加できるような仕組みを指向します。

⑤地域個性を生かした宿泊機能の充実

<主旨・ねらい>

- ▶ 本地域の特性を活かし、しっとりとした歴史的な情緒を味わったり、地域に住む人々とのふれあいを楽しみながら宿泊滞在自体が旅の目的となるような宿泊機能の形成がねらいとなります。このため歴史的町並みの中にある町屋や小中学校の統廃合により廃校となった校舎等、既存ストックを有効活用した、地域個性豊かな宿泊機能を整備していきます。
- ▶ 旅館、ビジネスホテル中心の既存の宿泊機能を補完し、新たな宿泊タイプの創出につながるものです。

<具体的アクション（三十六計）>

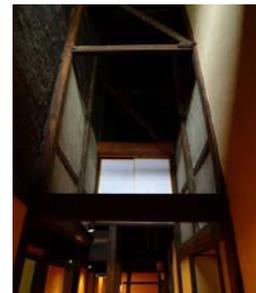
⑤-1 「町屋ステイ」の推進

- ・ 空き家となった町屋等を活用し、伝統的な暮らしを体験できる宿泊施設として整備・運用し、泊まること自体が目的となるような長期滞在向けの宿泊タイプ「町屋ステイ」の創出に向けた取り組みを進めます。
- ・ 「町屋ステイ」は、宿泊と朝食の提供を行うB & B (Bed and Breakfast) 方式による営業形態が基本となり、夕食は地元の飲食店等を利用してもらうことになることから、地元飲食店の活性化にもつながります。
- ・ 「町屋ステイ」の営業方法としては、旅館業法の適用を受け、宿泊料金の支払いによって「宿泊施設」として提供する方法と、短期賃貸借契約で提供する「貸家」として提供する方法の2つがあります。

■他地域での参考となる取り組み

古くからの町屋を活用した短中期滞在型施設「季の雲ゲストハウス」

- 所在地 滋賀県長浜市
- コンセプト 「自宅離れのゲストハウス」をコンセプトにした、短期滞在型の宿泊施設であり、一棟を一日単位で借り上げて宿泊いただく方式で、町屋での宿泊機会を提供
- 施設概要 「季の雲ゲストハウス・ステイ」と名付けた町家を改装したモダンな空間の二棟と、「季の雲ゲストハウス・ホテル」と名付けた清潔感あふれる新築の八室、で構成。レストランとギャラリーを併設。
- 宿泊料金 ホテルは、通常1名利用で10,500円、2名利用で17,850円（1泊朝食付）



写真提供) 株式会社まちづくりカンパニー・シーブネットワーク

⑤地域個性を生かした宿泊機能の充実

⑤-2 廃校舎等の宿泊研修施設としての活用

- ・ 廃校となった校舎等を活用し、多様な体験や交流の拠点となる研修宿泊施設として整備・運用する取り組みを進めます。
- ・ このような取り組みを行ううえでは、快適な宿泊施設として然るべき改修を図るとともに、周辺地域住民の運営への協力や積極的な関与が不可欠となります。

■他地域での参考となる取り組み

廃校舎を活用した「エコミュージアム川根」の取り組み（広島県安芸高田市川根地区）

中学校の統合で空いた校舎を利用し、研修宿泊施設「エコミュージアム川根」を整備している。宿泊用の客室数は和室3室、洋室5室（4人定員）の合計8室で、40人程度の収容力を持つ。また施設内には、レストランや会議ができるホールも設置されている。レストランは地元の女性たちで運営され、地元の川魚や季節の食材を使った様々な料理を提供する。周辺ではホテルの観賞や川遊び等の自然体験ができる。

本施設は、行政と住民の出資 740 万円で運営され、現在年間 8,000 人以上の利用がある。

川根地区は、地域の振興協議会が自然環境と農村景観を活かして地域の活性化を図ろうと「川根地域総合開発構想（清流の里構想）」を立て、自治に基づく活性化に住民主体で取り組んでおり、エコミュージアム川根はその一環として整備された。



廃校舎を活用した滞在型宿泊施設「さんさん館」(宮城県本吉郡南三陸町)

少子高齢化による児童数の減少により廃校となった校舎を利用し、農・林・漁業の多様な体験交流施設として活用している。以前から町で取り組んでいたグリーンツーリズムの流れに乗り、スタッフも揃っていたことで上手く機能している。

本施設を拠点に、別組織の農産物直売所ができる等、地域活性化にも結びついている。

各種メディアにも取り上げられ、多くの視察を受け入れるモデル的事業となっている。



◎新しい取り組みに対する支援と仕組みづくり

＜主旨・ねらい＞

- ▶ 前述したような「新しい原石の発掘・磨きかけと感動を呼ぶプログラムづくり」や「地域個性を生かした宿泊施設の充実」等に関する取り組みを円滑に進めていく上では、市民活動団体や地域住民の協力が必要不可欠になります。そこで、地区や集落の実情に即した市民協働の体制づくりを図ります。
- ▶ また当事者意識をもって主体的に取り組む事業者や団体、市民をバックアップする体制についても検討します。

＜具体的アクション（三十六計）＞

◎－1 主体的地域活動の可視化・相互連携と行政との協働体制の継続・強化

- ・ 集客・観光・交流に関わる市民活動団体の取り組みを相互に理解し、互いに認め合うことで、効率的・効果的な活動の促進につながるよう、ホームページやニュースレターによる取り組みの進捗状況等に関する情報公開と、相互連携のための場・機会の提供を継続的に実施します。なお「結いの会」等は、多様な市民活動団体をむすびつける中間支援組織として、重要な役割を担うものと期待されます。
- ・ また、「香取市市民協働指針（かとりのかぜ）」に位置づけられているように、共催事業、協力事業、委託事業、支援事業等のかたちで、必要に応じて経済的、技術的な支援を行い、観光まちづくりの推進、地域間交流の促進等において、市民活動団体等と行政が協働で取り組みます。

■香取市における先行的な取り組み

地域活性化プラットフォーム事業

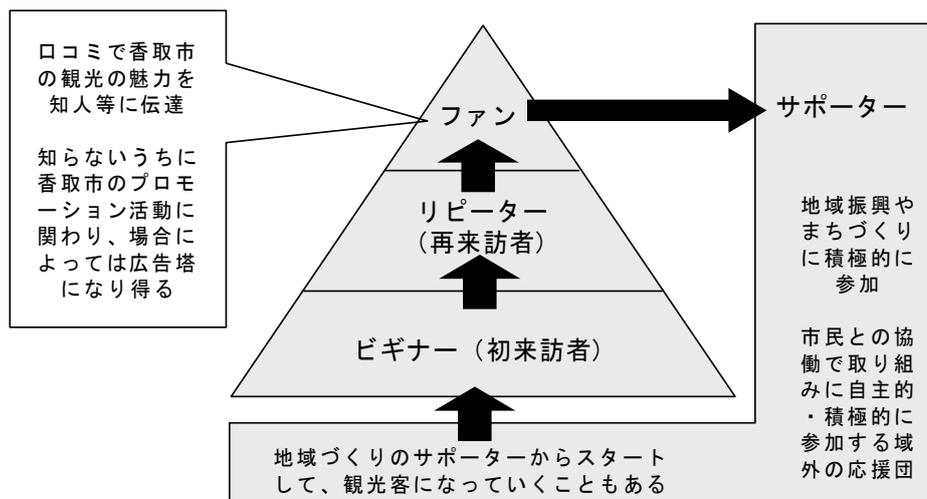
市では平成 21、22 年度に千葉県地域活性化プラットフォーム事業の採択を受け、様々な活動主体が互いに連携・協働して観光まちづくりを進めるための情報の公開と共有、協働体制づくりを進めている。



⑥新しい取組みに対する支援と仕組みづくり

⑥-2 大学や専門家、香取サポーター等との応援体制づくり

- ・ 香取市の集客・観光・交流に関わる様々な取り組みの担い手、応援団として、地域内の人だけではなく、大学や専門家、地域外の香取ファン（サポーター）等との連携を強化し、市民主体の様々な取り組みのバックアップの体制づくりを進めます。
- ・ 具体的には、既に佐原区や栗源区等で行われているような、大学等と連携した観光・交流に関わる調査・研究の継続的推進、イベント応援隊や農村部での援農隊といった地域応援団およびふるさと納税を含むふるさと応援団の仕組みづくり、さらにこのような応援団同士の交流促進や、応援団が機動的かつ柔軟に動けるように地域との調整等バックアップを図っていきます。
- ・ また、香取市に関心と愛着を持ち、香取市の魅力を積極的に紹介してもらえる著名人や学識者等を香取特派員・外部広報員として任命し、香取市に関する情報発信を積極的に行ってもらおうことも考えられます。



観光客のリピート利用を促進し、ファンやサポーターを育てていくことが重要

■香取市における先行的な取り組み

大学研究室との連携を活かした集客・観光・交流活性化

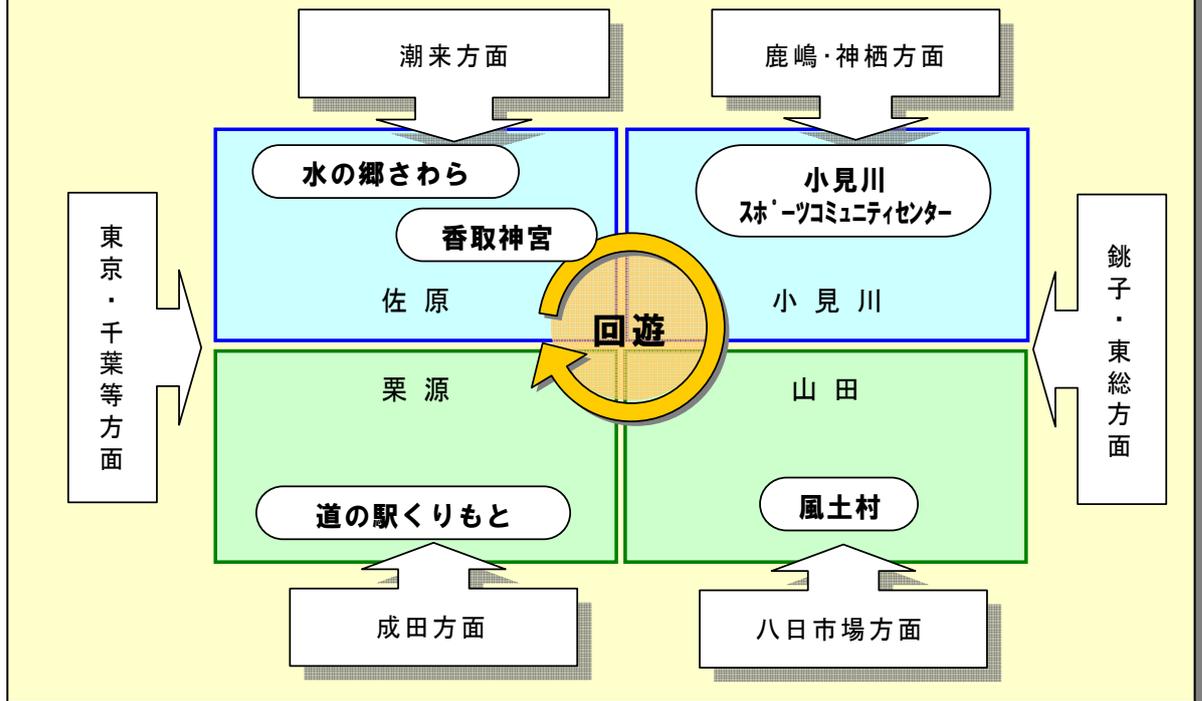
本市の先進的なまちづくり・地域づくりは、都市工学や公共政策等に関わる多くの大学の格好の研究フィールドに設定されている。本市ではこうした活動を積極的に受け入れ、そこから提示された斬新なアイデアの実現を図ったり、イベントへの応援をいただくなど、協働の取り組みを進めている（右のスケッチは、東京大学都市デザイン研究室から提案された伊能忠敬駐車場の板塀整備のアイデアでその後実現）



⑦玄関口機能の充実 ～ゲートウェイの形成～

＜主旨・ねらい＞

- ▶ 多様な観光ルート上に位置する香取市の特性を活かしながら、「水の郷さわら」「道の駅くりもと」等の広域交流拠点を香取市への集客・観光・交流の玄関口（ゲートウェイ）として位置づけ、情報・交通・ホスピタリティ（もてなし）等に関する必要な機能強化や然るべき取り組みを進めていきます。



＜具体的アクション（三十六計）＞

⑦-1 交通結節点としての機能強化と認知度向上

- ・ ゲートウェイの交通結節点としての機能強化を図るため、高速バスや市内循環バス等の乗換拠点として路線やダイヤ調整、レンタサイクル（乗り捨て拠点）の本格的導入、地域創発型商品（着地型旅行商品）の起点としての機能強化を進めていきます。
- ・ まちなか等での乗用車等の通行や駐車をできるだけ削減し、歩いて楽しむ環境づくりを進めるため、道の駅等の協力の下、舟運や市内循環バス等の公共交通機関への乗換を可能とする“市内P&R（パーク・アンド・ライド）システム”に取り組みます。また、公共交通機関乗車・乗船料の割引等の各種優遇措置も考えられます。
- ・ 「水の郷さわら」「道の駅くりもと」等の広域交流拠点を香取市観光の玄関口（ゲートウェイ）として有効に機能させる上では、まずゲートウェイとしての存在および位置づけと、そこで受けられるサービス等に関する認知度を高める必要があります。ホームページ等の様々な媒体や高速道路のサービスエリア等で情報発信し、ゲートウェイの認知度向上を図ります。

⑦ 玄関口機能の充実～ゲートウェイの形成

⑦-2 ゲートウェイ間の情報の共有化（ゲートウェイ協議会の設置）

- ・ ゲートウェイは、香取市を訪れる多くの人が立ち寄る施設です。そこで、ゲートウェイとなる各施設の周辺の情報だけではなく、市全体の集客・観光・交流に関する情報を広く提供できるよう、情報の共有化を図っていきます。
- ・ 具体的には、各ゲートウェイの施設管理者を主体とし観光に関わる活動団体等で構成される「ゲートウェイ協議会（仮称）」を設置し、イベント等に関する情報共有や企画調整（輪番制による集客・観光・交流イベントの開催等）、来訪者の属性データの共有化等を図っていきます。なお千葉県地域活性化プラットフォーム事業香取市地域活性化推進委員会が母体となって、「ゲートウェイ協議会（仮称）」の役割を担っていくことが想定されます。

⑦-3 香取市全体の総合観光情報の発信

- ・ 香取市全体のゲートウェイとして、デジタルサイネージ等を活用した市内全域の集客・観光・交流に関わる情報や季節のリアルタイム情報の提供、旅の相談やアレンジ等の案内サービスを展開していきます。
- ・ また将来的には、飲食店や宿泊施設の予約手配、文化・体験プログラムの申し込み等もできる観光コンシェルジュ機能を備えた案内窓口を設置していきます。

■他地域での参考となる取り組み

玄関口における観光コンシェルジュの設置

静岡県熱海市では、熱海駅構内に「熱海コンシェルジュ」が設置されており、熱海観光に関する様々なアドバイスを受けることができる。また、インターネットで検索できる情報専用端末も設置されている。



道の駅における各種体験プログラムの情報提供

岩手県遠野市の道の駅・遠野風の丘では、グリーン・ツーリズムを中心とした体験プログラムが一覧できる展示スペース、それぞれの体験プログラムのパンフレットラックが設置されるとともに、観光案内所から連絡をとってもらうことも可能な体制がとられている。

写真の上は、展示スペース、下に該当するパンフレットが置かれている



③ 快適回遊の実現

＜主旨・ねらい＞

- ▶ 現在、佐原地区に集中している観光客の市内各地区への回遊や、次の来訪機会における他地区への来訪を積極的に促すため、2次交通条件の整備、および共通乗車（船）券等市内回遊に対する各種インセンティブの提供を行っていきます。
- ▶ 需要に応じたデマンド交通運行を基本にししながら、バスやタクシーの利便性を高めるとともに、水郷地帯の特色である舟運を活用し、移動手段自体が楽しみになるようにしていきます。

＜具体的アクション（三十六計）＞

⑧-1 循環バスや舟運等の連携と利便性向上

- ・ 観光利用を想定した、循環バスのルート拡充や運賃体系の見直し、休日の循環バスの運行、および鉄道利用者等を想定した循環バス利用のツアー商品開発等を行い、循環バスの利用促進と観光利用の利便性向上を図ります。また、予約型の観光乗り合いタクシーの導入に向け、その体制整備を検討します。
- ・ 小野川舟運等水上交通の移動手段としての一層の利便性の向上を図るため、新たな船着場の整備に取り組みます。
- ・ また近年では、自分の自転車を旅行先に持ち込み、サイクリングを楽しむという新しい旅の形（サイクルツーリズム）もみられます。このような旅行スタイルに対応するため、小野川舟運の舟への自転車の持ち込み対応等、自転車と公共交通との連携についても対応を検討します。

■ 他地域での参考となる取り組み

観光乗合タクシーの運行

群馬県みどり市では、平成23年に開催される「群馬ディスティネーションキャンペーン」の一環として、市内の主要駅と主要観光施設をジャンボタクシーが時刻表どおりに運行する「みどり観光乗合タクシー」を運行している。

停留所：駅および主要観光施設の5箇所

運行日：土日祝日

運行時間：8時40分～17時00分

料金：おとな300円、こども150円

【1日フリー乗車券】おとな500円、こども250円



基本方針
記憶の継承

基本方針
個々の魅力向上・可視化

基本方針
連携・ネットワーク化

基本方針
持続的マネジメント

③ 快適回遊の実現

⑧-2 レンタサイクルシステム・サイクリングコースの充実

- ・ 佐原駅（水郷佐原観光協会）や「水の郷さわら」のみならず、各ゲートウェイや主要公共施設においてレンタサイクルステーションを整備・運営します。
- ・ また、フリー乗降システム（乗り捨て）や自動化の導入、高齢者等でも移動手段として容易に活用できる電動アシスト付自転車の導入、安全・安心なサイクリングコース（自転車回遊コース）の設定とマップ等による情報提供を行います。
- ・ 前述した自転車愛好家（サイクリスト）に対して、快適に休憩できるとともに、自転車のメンテナンスに対応したステーションを、地元商店等との提携により整備していくことが考えられます。

■ 他地域での参考となる取り組み

レンタサイクルの利用推進

千葉県千倉町では、道の駅を起点とした回遊コースを複数テーマで設定し、クジラのロゴをあしらった標識を設置している。また、メーカー、大学研究室と協力し、高齢者にも乗りやすい三輪自転車を開発して鉄道駅や道の駅を起点としたレンタサイクルに活用している。



Message from Chikura!
自転車に乗ってのんびりと

南房総・千倉町は、『花と海と太陽の町』として知られています。のどかでゆったりとした千倉町の魅力を満喫するには、小回りが多い、ゆったりできる、徒歩や自転車で気軽に楽しめます。

- 1日500円＋保証金500円
返却時に保証金をお返しします
- 利用時間
10:00から4:30まで
- 貸し出しと返却
千倉駅前観光案内所
(TEL:0470-44-3581)
道の駅くら淵渡公園
(TEL:0470-45-1511)
の2ヶ所です
※どちらでも返却できます

&trike
最新型自転車「trike」についてのお尋ねは…
(株)アムンダ 千葉県南房総市千倉1-11-4 TEL:047-408-2788

充実したレンタサイクルサービスの提供

京都・サイクリング・ツアー・プロジェクト（KCTP）では、京都の町を自転車で楽しめるようにするため、自転車の乗り捨てサービスや自転車の配達・回収サービス、レンタル中のトラブルにも迅速に駆けつけするなど、充実したサービスを行っている。また、マウンテンバイクをはじめとして、性能・デザイン性の高い車両を用意し、京都特有の坂道や車が入れないでこぼこ道でも快適に走行できるようにしている。

日本のエコツーリズムサイト
Close up site from 京都

みやこ
京は自転車でおまわりやすー
京都一

京のデザインフォーラム エコツーリズムワーキンググループ 十倉真朱子

京都・サイクリング・ツアー・プロジェクト（KCTP）は、京都の町を自転車で行くためのあらゆるサポートを行っている。京都府内にサイクルポートを4箇所設置してポート間のレンタサイクルの乗り捨てサービスや、必要となる場所への自転車の配達・回収サービスを行っている。一泊一泊の丁寧なメンテナンスと、レンタル中のいるトラブルにも30分以内で駆けつける迅速さが最大の強み。

KCTPが用意する自転車は、マウンテンバイクを含め、性能・デザイン性の高さを誇る。土地に馴染み上げられた時間、人、匂い、色、音、ぬくもり……。そんなまろやかな風景の中で感じる心地よい乗り物、それが自転車だ。

落ち込んでいた時も、マウンテンバイクに乗れば心が軽くなる。インターネットで予約すれば、さらにまちを歩くと、深く味わうことができる。そんな考えがKCTPは、サイクリングでも充実している。今までの自転車観光は、タクシー、バスに乗って、点から点へ移動して歩くスポット観光であり、点と点の間の「間」はほとんど無視されていた。しかしその間にこそ、（いかに）美しいような宝が眠っている。それを自転車というツールで感じ、システム化した日本では初めての取り組みがKCTPの強みである。

「人気コースが、京の町家めぐり」と「京の風景めぐり」だ。車では入れない特別な小路を抜けて、京の暮らしの歴史・文化が凝縮された「町家」や、歴史が語り出す「スリッパの空間」を堪能できる。

まちを見る、土地に馴染み上げられた時間、人、匂い、色、音、ぬくもり……。そんなまろやかな風景の中で感じる心地よい乗り物、それが自転車だ。

落ち込んでいた時も、マウンテンバイクに乗れば心が軽くなる。インターネットで予約すれば、さらにまちを歩くと、深く味わうことができる。そんな考えがKCTPは、サイクリングでも充実している。今までの自転車観光は、タクシー、バスに乗って、点から点へ移動して歩くスポット観光であり、点と点の間の「間」はほとんど無視されていた。しかしその間にこそ、（いかに）美しいような宝が眠っている。それを自転車というツールで感じ、システム化した日本では初めての取り組みがKCTPの強みである。

「人気コースが、京の町家めぐり」と「京の風景めぐり」だ。車では入れない特別な小路を抜けて、京の暮らしの歴史・文化が凝縮された「町家」や、歴史が語り出す「スリッパの空間」を堪能できる。

開設して1年半、レンタサイクルは月間1,200台を超え、サイクリングツアーも数日に1回のペースで予約が入り、収支がなんとかの状態でたたき進んでいる。KCTPは、第3期京都市観光ビジョン「観光誘客・京都市観光振興計画」の策定を機に、京都市観光振興計画に採択



朝日川を畔に走るKCTPのツアー



京都 町家の一角に広がるKCTPの拠点

まちを歩くと、深く味わうことができる。そんな考えがKCTPは、サイクリングでも充実している。今までの自転車観光は、タクシー、バスに乗って、点から点へ移動して歩くスポット観光であり、点と点の間の「間」はほとんど無視されていた。しかしその間にこそ、（いかに）美しいような宝が眠っている。それを自転車というツールで感じ、システム化した日本では初めての取り組みがKCTPの強みである。

開設して1年半、レンタサイクルは月間1,200台を超え、サイクリングツアーも数日に1回のペースで予約が入り、収支がなんとかの状態でたたき進んでいる。KCTPは、第3期京都市観光ビジョン「観光誘客・京都市観光振興計画」の策定を機に、京都市観光振興計画に採択

開設して1年半、レンタサイクルは月間1,200台を超え、サイクリングツアーも数日に1回のペースで予約が入り、収支がなんとかの状態でたたき進んでいる。KCTPは、第3期京都市観光ビジョン「観光誘客・京都市観光振興計画」の策定を機に、京都市観光振興計画に採択



京都のTA-KA-RAモノ

京都府観光局、京都府の「まちの」の発展を促すための取り組みとして、観光客が安心して楽しめるよう、観光客のニーズに応じたサービスを提供しています。また、観光客の安全を確保するため、観光客の安全を確保するための取り組みを行っています。

③ 快適回遊の実現

⑧-3 安全・安心の巡り歩き環境の整備

- ・ 佐原区等の観光の魅力が集積するまちなかや水辺、源流と里山を魅力とする農村集落等を車両交通の心配をすることなく、ゆったりと巡り歩ける交通環境を整備します。
- ・ 具体的には、ゲートウェイにおけるP&R（パーク・アンド・ライド）システムの利用促進、まちなかにおける集客・観光・交流魅力の拠点あるいは周辺部における大型車両（バス）対応の駐車場の確保と歩行による観光促進を図っていきます。併せて、時間帯や通行目的等を限定しつつ車両交通規制（方向や速度）についても取り組んでいきます。
- ・ また今後各地域で発掘していく新しい集客・観光・交流資源等への適切な誘導や、ウォーキングコースの利用促進をねらいとして、デジタルサイネージ等と連携した、観光サインの整備を進めていきます。
- ・ なお観光案内サインの設置については、「佐原公共サインマニュアル」の考え方に準ずるとともに、国土交通省（観光庁）が進める「観光地等における案内表示等の多言語化」を参考に、外国人旅行者にも対応したものとしていきます。主要な集客・観光・交流施設については、日本語の他、英語、ハングル（韓国語）、簡体字（中国語）の併記を基本としていきます。
- ・ 高齢者や車椅子利用者、身体障がい者、乳幼児を連れてきたファミリー等が安心して巡り歩きができるように、バリアフリー対応の公衆トイレの整備に取り組みます。

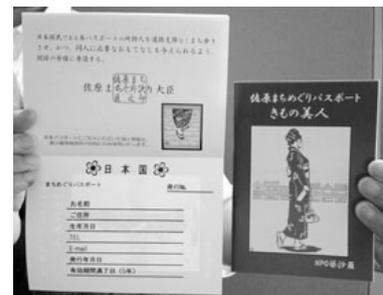
⑧-4 町巡りパスポート・共通乗車（舟）券の発行

- ・ 循環バスの一泊乗り放題乗車券、「水の郷さわら」を基点とした小野川舟運の利活用を促進するための割引往復乗舟券、またこれらの共通乗車券の発売など、公共交通機関等を使った市内回遊を促進するため、割安な乗車（舟）券の発売に向けて研究します。
- ・ 市内の観光施設や飲食・物販施設等の回遊・買い回りの促進、リピーターへのインセンティブとなるような、例えば割引特典や特産品の無料提供、スタンプラリー等の仕組みを検討し、これらの特典が利用可能なオール香取のパスポートの作成・発行に向けて取り組みます。

■ 香取市における先行的な取り組み

佐原まちめぐりパスポート

NPO 娑婆羅では、千葉県 の 2010 年度地域活性化プラットフォーム事業を活用して、市佐原地区での観光や買い物に関する特典を盛り込んだ、佐原まちめぐりパスポートを作成している。



◎産業と連携した集客・観光・交流の魅力創出

<主旨・ねらい>

- ▶ 集客・観光・交流は、観光事業者だけでなく、広く地域の産業に波及し、活性化に結実していく可能性を持つものです。旧・佐原中心市街地活性化基本計画において、市街地再生の有効なツールとして「観光」に着目し、ものづくりや食等を中心とした産業観光をコンセプトに掲げ、地域振興に成果をあげてきたことはその一端を示しています。
- ▶ 伝統工芸等を体験プログラム等に活用しながら、「ものづくり」産業との一層の連携を図っていきます。
- ▶ 香取市は県内有数の農業生産額を誇っており、農業と連携した集客・観光・交流の魅力創出の可能性は高いと考えられます。地域に伝承されてきた食文化を踏まえつつ、こうした新鮮・安心な農産物を活かした食の魅力や観光客ニーズに即した土産物を開発することで、観光客の地域内での消費を促し、観光をより地域経済の活性化に結び付けていくことを目指します。
- ▶ 農業が基幹産業となっている山田・栗源等においては、農業者と連携したグリーン・ツーリズムに取り組み、二地域居住や定住促進にもつなげていきます。

<具体的アクション（三十六計）>

◎-1 ものづくりとの連携による体験プログラム化

- ・ 佐原張子や佐原和傘、酒、醤油、和菓子など、香取市の伝統工芸の“技”や、“水の良さ”および食文化を支える醸造事業者等を広くPRしていくとともに、観光客が工房・蔵等に立ち入り、作業風景や創作過程を見学したり、工芸家や杜氏、スタッフ等からその独特の技術や文化に関するレクチャーを受けたり、お酒等の試飲と土産品購入などができる産業観光の場としての提供を促進します。
- ・ 和菓子や佐原張子等については、試作体験などを通してその技術を学べる文化・体験プログラムとして活用していきます。
- ・ なお市内の他の製造業についても、工場見学等の産業観光として展開可能性について調査し、理解と協力を求めていきます。

◎-2 「食」を活かした地域連携の促進

- ・ 飲食施設、宿泊施設における地産地消を魅力とした名物料理の提供等にも積極的に取り組みながら、香取市の「農」の魅力と「食文化」をセットで打ち出していきます。
- ・ 「食文化」として打ち出していくため、各家庭で伝承されてきた郷土料理や、特産品の活用による調理法（イチジクの天ぷら）などを「香取のレシピ」として取りまとめ、その普及・PRを行うとともに、それを来訪者に提供できる場づくりや、文化・体験プログラムとしてのお料理教室等の取り組みを進めます。

基本方針
記憶の継承

基本方針
個々の魅力向上・可視化

基本方針
連携・ネットワーク化

基本方針
持続的マネジメント

◎産業と連携した集客・観光・交流の魅力創出

- ・ また市内の農産物を活用した特産品、加工品の開発に取り組むとともに、まちなかなどへの農産物加工・体験施設等を設置し、農産物生産者と消費者、来訪者とを結びつけていきます。
- ・ なお新たな名物料理や「食」の魅力開発にあたっては、各家庭で作られているアイデア料理等をコンテスト形式で募集する等の方法も考えられます。

■香取市における先行的な取り組み

結いの会における地元の素材を活用した安心安全メニューの提案

結いの会では、地元の野菜を使い、産地と消費者をつなぐ安心安全メニューを提案するとともに、地元食材と技のコラボレーションでプロの技を学ぶ「フレンチレッスン」等のイベントを開催している。



■他地域での参考となる取り組み

アイデア料理の募集

和歌山県田辺市では、地域特産の梅を使った加工・調理法のアイデアを商品化も見据えながら広く募集している。



食の文化祭による伝統料理の顕彰・創作料理の募集

三重県鳥羽市は、伊勢神宮に御神饌を奉納する「御食つ国（みつづくに）」として知られる。その鳥羽市の最大の離島・答志島では、豊かな海の幸を活かした「伝統の味」「家庭の味」を伝承するとともに、新たな創作料理を集め、品評しあう「島・食の文化祭」を継続的に開催している。

一流の料理人が参加して品評するなどにより島人に受け継がれてきた逸品を顕彰し、継承を図るとともに、宿泊施設や飲食施設においてアレンジして観光客へ提供するきっかけともなっている。



⑨産業と連携した集客・観光・交流の魅力創出

⑨-3 「農」や「自然」を生かした交流居住の促進

- ・ 山田・栗源等において、農業体験はもとより、自然体験や農村風景を楽しむ散策・サイクリング、昆虫採集、草木染め等の里山ならではの体験、食を中心とした、自然と共生した豊かな暮らしの体験等を総合的に組み込んだグリーン・ツーリズムのプログラム開発を進め、これまで蓄積されてきた都市住民との交流をより一層ふかめていくとともに、地域創発型の旅行商品として流通を図ります。
- ・ また豊かな自然の中で、のんびりと野菜や花づくりを滞在しながら楽しみたいという都市住民のニーズに対して、クライנגルテン等貸農園の提供や、民泊とセットになった遊休農地の貸与等を進めます。地域の農家は、これらの都市住民への農業技術指導や補佐等のホスト役を担いながら、暮らしをベースとした交流に取り組むことが重要です。
- ・ こうした取組みにより、定期的に香取市を訪れるファンを増やし、将来的には二地域居住や定住促進を図ります。

■香取市における先行的な取組み

クライングルテン栗源（滞在型市民農園）

1区画310㎡の土地にラウベ（休憩小屋）と農園（畑）がセットされたクライングルテンが、千葉県内の都市住民および東京都民に提供されている。地元の農家がインストラクターとして各区画につき、野菜の栽培方法や管理の仕方などの指導を行っている。このインストラクターを中心に、山菜採り、収穫祭、味噌づくり、栗源を代表する「いも祭」への参加など各種イベントを通し、地元農家と都市住民とのふれあい型の「顔の見える交流活動拠点」となっている。



山田・栗源におけるグリーン・ツーリズムの取組み

栗源・沢小学校周辺地域では、「農村ギャラリー」化の一環として、都市部の子育て・環境グループ（NPO法人子供の環境を守る会Jワールド（松戸市））を受け入れ、里山保全作業を協働しながら、自然体験や交流に取り組んでいる。なお千葉県地域活性化プラットフォーム事業に認定されている市民協働の取組みには、栗源特産品開発源流会、里山古道保存会、ボランティア栗源の活動があり、いずれも栗源区におけるグリーン・ツーリズムのメニューを広げるものと位置づけられる。

また山田区の橋ふれあい公園周辺に群生する植物の公開植物観察会の実施や、休耕田・荒廃した里山の整備と活用を図るボランティア集団山人の活動も、千葉県地域活性化プラットフォーム事業として取り組まれているもののひとつである。



基本方針
記憶の継承

基本方針
個々の魅力向上・可視化

基本方針
連携・ネットワーク化

基本方針
持続的マネジメント

⑩情報の受発信の充実と利用者目線でのネットワーク化

<主旨・ねらい>

- 香取市内の多様な市民活動団体の取り組み情報を共有化し、利用案内等をゲートウェイや観光案内所での確に情報発信していくことが望まれます。
- またこのような市民活動団体の取り組み情報や、季節の魅力等のリアルタイムの観光情報を、香取市に関心を持つユーザーに直接配信していくことも有効と考えられます。
- インターネット時代における集客・観光・交流情報は、ホームページの演じる役割が大きくなっています。香取市においても、観光協会、行政、各種NPO等がホームページで情報発信しています。ただしこれらの情報は重複しており、どのような場合にどのホームページを参考にしたらよいか、必ずしも明確ではありません。利用者の立場になって、香取市の観光情報を一元的にまとめていくことが望まれます。

<具体的アクション（三十六計）>

⑩-1 ホームページやデジタルサイネージ等の有効活用

- ・ 香取市の観光情報を紹介する既存の各ホームページの役割を明確にするとともに、相互リンクを充実させます。なお、ホームページ等における情報提供にあたっては、外国人観光客を想定した多言語対応を考慮します。
- ・ ホームページやデジタルサイネージで常に最新の情報が得られるよう、市民情報員との連携など情報更新体制を整備します。

■他地域での参考となる取り組み

市民参加によるホームページの情報更新

伊勢志摩 17 市町村（2001 年当時）を対象として一般公募した伊勢志摩地域の『きらり』（風景や観光スポット、食べ物など、地域の様々なたからもの）を紹介するとともに、『きらり』に対する『おすすめ』も書き込むことができる参加型サイト。民間ボランティアと県職員によって発意され、継続的に運営されている。



⑩-2 利用者の立場に立った情報伝達

- ・ 情報発信にあたっては、多様な年代のターゲットを想定し、パンフレット等の紙媒体はもとより、携帯サイトやツイッターの活用等、様々な媒体を活用していきます。
- ・ また、携帯ゲームサイト（例えばコロプラ等）と連携したインセンティブの提供や、香取市への観光来訪者や関心をもつ者が自動的に登録することで自動的に配信リストを作成し、季節の旬情報や市民協働の取り組み情報が掲載されたメールマガジンを配信することも考えられます。

基本方針
記憶の継承

基本方針
個々の魅力向上・可視化

基本方針
連携・ネットワーク化

基本方針
持続的マネジメント

⑩情報の受発信の充実と利用者目線でのネットワーク化

⑩-3 香取ファンとの“心の交流”の展開

- ・ 個人情報保護に配慮しながら来訪者情報を蓄積し、香取ファンの開拓・組織化を図っていきます。なお香取市にゆかりのある人（市民の縁戚、出身者等）は香取ファンとなる有望な層であり、香取ファンとして登録してもらうように、ダイレクトにはたらきかけることも考えられます。
- ・ 具体的には、地域内外の人々が市内の魅力情報を効果的に収集、活用することのできる「香取ファンクラブ」を結成し、ファンクラブ会員のみを対象とした会員特典を設け、再来訪のきっかけづくりを行っていきます。
- ・ なお「香取ファン」は、お願いすればなってもらえるようなものではありません。あくまでも、地域の人々との心の交流を通じ、地域での観光を“記憶”としてではなく“思い出”として持ち帰ってもらえるようなおもてなしの展開がベースとなります。

■他地域での参考となる取り組み

地域のファンクラブ「飯山応援団 菜の花大使」の創設

長野県飯山市では、社団法人信州いいやま観光協会において地域のファンクラブともいえる「飯山応援団 菜の花大使」を創設している。応援団への入会者には、メールマガジンによる飯山市の情報提供や、ホームページ上で旬の飯山市の会員限定情報の閲覧、飯山応援団限定商品の購入などの会員限定のサービス等が受けられるようになっている。また、地域内で会員証を提示すると、地域内の提携店にて割引サービスやプレゼントなどの特典が受けられる。



飯山へ来ると得するプラン
提供店に行き応援団会員証をお見せ頂くとプレゼントなどの特典があります！

●飯山市内 協力ガソリンスタンド
にて飯の花大使之証を見せると
ガソリン・軽油 1Lあたり2円引き!!

【お願い】
■協力ガソリンスタンド・マップを確実にご利用ください。
■協力店へおいでの際、初めに「菜の花大使之証」を提示してください。
■値引きにつきましては、現金のおおきみとさせていただきます。
■「菜の花大使之証」は、ご本人様のご利用とさせていただきます。
■各店の現金会員様の値引きと「菜の花大使之証」を合わせての二重値引きは致しません。

詳しくはクリック
[協力ガソリンスタンド一覧・マップはこちら](#)

⑪戦略的地域プロモーションとワンストップの受入体制づくり**<主旨・ねらい>**

- ▶ 多くの人に香取市に訪れてもらうようにするためには、まず香取市の知名度を上げ、イメージを強化するための効果的なプロモーションを行う必要があります。
- ▶ 個人・小グループ型への旅行形態の変化、参加体験型へのニーズの高まり、多様化といった観光動向の変化に対応しつつ、市内各地区やまち、集落における地域資源を活かした市民協働、および各組織の横断的な連携により、体験型・滞留型の観光・交流を推進していくため、着地側の主導により当該地域ならではの「着地型旅行商品」を提供したり、ホスピタリティ豊かな観光コンシェルジュやランドオペレータ機能の拡充を図るなど、戦略的なプロモーションに取り組みます。
- ▶ 着地型旅行商品等の販売により、地域が経済的に自立していくため、地域内の着地型旅行商品等の提供者と市場（旅行会社、旅行者）をつなぐワンストップ窓口となる機能を担う事業体形成を目指します。
- ▶ 国土交通省（観光庁）では、観光立国の実現に向け、訪日外国人旅行者 3000 万人プログラムを策定するとともに、第 1 期目標として 2013 年の 1,500 万人を掲げ、具体的な支援を行っています。香取市においても佐原区でのこれまでの取り組みを活かしながら、インバウンドの促進を図っていきます。

<具体的アクション（三十六計）>**⑪-1 「香取を有名にする」戦略的プロモーションの共同展開**

- ・ 香取市全体のプロモーションを担う組織（後述する集客・観光・交流アクションプラン推進協議会）を明確化するとともに、TV・ラジオ番組や旅雑誌等への積極的な観光情報のリリースと、それによるパブリシティ等、「香取を有名にする」プロモーションに取り組みます。
- ・ 映画やドラマ、コマーシャル等の映像作品を通じて香取市の魅力を発信できるよう、ロケ地情報の提供や現地での撮影協力等、積極的な受け入れに取り組んでいきます。
- ・ また、広域的な観光周遊ニーズに対応するため、水郷三都観光推進協議会による鹿嶋市、潮来市と連携したプロモーションも継続的に進めていきます。
- ・ なお、香取市全体での地域イメージの発信には限界があるため、佐原・小見川・山田・栗源といった地区毎に実施する観光協会等のプロモーションと連動させていきます。
- ・ また既存商店街においては、前述（③-4）したオープンカフェやフリーマーケット、軒先コンサート等各種の集客・観光・交流イベントを、商店街相互や各種市民活動団体等と連携して実施していきます。

基本方針
記憶の継承

基本方針
個々の魅力向上・可視化

基本方針
連携・ネットワーク化

基本方針
持続的マネジメント

⑪戦略的地域プロモーションとワンストップの受入体制づくり

■参考：段階ごとの必要とされる情報の特徴

	必要とされる情報の特徴	情報媒体
I 旅行誘発のための情報	<ul style="list-style-type: none">➢ 発地において、旅行に行きたくさせるための情報➢ イメージを喚起するような情報が中心➢ 具体的なデータ等はいらない➢ 利用者は受身である（積極的に情報収集しようとする行動はとらない）	<ul style="list-style-type: none">□テレビコマーシャル□ポスター□旅行会社の店頭にある旅行パンフレット（表紙）□クチコミ など
II 選別するための情報	<ul style="list-style-type: none">➢ 時期、目的地、目的地での活動内容等を決定するための情報➢ 「どこに」「何をしに」という選別をするための情報が含まれる場合もある➢ 利用者が能動的に情報収集する	<ul style="list-style-type: none">□ガイドブック□旅行雑誌□旅行商品のパンフレット□インターネット など
III 計画のための情報	<ul style="list-style-type: none">➢ 目的地決定後、旅行計画を立てる時に利用する情報➢ 行き方、交通機関、宿泊施設等を決定するための情報となり、かなり詳細なものが要求される	第II段階のものに加えて、 <ul style="list-style-type: none">□地図□時刻表□電話・FAX など
IV 現地行動のための情報	<ul style="list-style-type: none">➢ 旅行先（現地）に到着してからの動態情報➢ 現地の入り口となる交通拠点、宿泊施設、観光施設等で次の行動を起こさせるための情報となる➢ 内容は施設の営業時間や料金、飲食店・土産品店、イベントの案内、観光コース、交通情報、天気関係の情報等	<ul style="list-style-type: none">□観光案内所・宿泊施設□観光施設の案内板掲示□パンフレット□人による案内□カーナビ など

来てもらったための情報、
まず知ってもらいたい、

⑪戦略的地域プロモーションとワンストップの受入体制づくり**⑪-2 外国人観光客の誘致プロモーションの展開**

- ・ 成田空港や首都東京から近いという立地条件を生かし、これまで主に佐原区では、外国人観光客の誘致を目的としたモニターツアーの実施、地域を紹介する英語版のホームページや地域プロモーション映像の作成、外国人観光客の通訳ガイド等を行う香取市国際交流協会の設立など、様々な取り組みを行っています。このような外国人観光客誘致のためのプロモーション活動をさらに継続発展させていきます。
- ・ 具体的には、外国人が異国情緒を感じることができる小野川沿いの町並みや水郷・里山風景を活かしながら、日本ならではの伝統文化を堪能できるコースを設定したり、外国人にも楽しめる文化・体験プログラムの提供を図っていきます。
- ・ これらを活かしながら、FCC（外国人記者クラブ）への体験プログラム等の継続な情報提供、(社)国際交流サービス協会へのプロモーションを通じた各国の外交官家族の受け入れ、外国人マスメディアや旅行会社等を招致する効果的なモニターツアーに継続的に取り組みます。
- ・ また『ラストワンマイルは佐原で』といったキャッチコピーのもと、発地側に向けたプロモーションを積極的に展開していきます。
- ・ 佐原駅前観光案内所（水郷佐原観光協会運営）や、ゲートウェイに具備すべき観光情報窓口においては、外国人、特に今後増大が予想される中国人等にも対応できるような態勢を整えていくことが望まれます。さらには飲食・物販施設、宿泊施設等を対象にした外国人接客研修や語学研修を進めるとともに、決済におけるクレジットカードや銀聯カード（中国において普及しているオンライン決済システム）への対応を促進します。

■香取市における先行的な取り組み**佐原区における外国人観光客誘致の取り組み**

佐原区では、平成14年に秋の大祭時に外国人観光客を対象としたツアーを実施したのをはじめ、空港付近のホテル宿泊者（特に外国人クルー）を対象とした誘客の実証実験、台湾旅行会社招聘事業、佐原ー成田（秋葉原）直通バス「小江戸佐原お散歩バス」運行など、外国人観光客誘致のための様々な取り組みを行っている。



⑪ 戦略的地域プロモーションとワンストップの受入体制づくり

⑪-3 観光コンシェルジュ・まちづくり事業体の形成

- ・ 水郷佐原観光協会、水郷小見川観光協会、佐原商工会議所等の横断的連携のもと、以下に示すような「観光地域づくりプラットフォーム」をモデルとして、観光コンシェルジュ等の着地オペレーション機能の充実、着地型旅行商品のプロデュースとプロモーション、その他様々なマネジメントを担う、自立経営型観光まちづくり事業体の形成を目指します。
- ・ なお観光庁では旅行業法の規制緩和と併せて、地域における第3種旅行業の普及と着地型旅行商品提供を進めていますが、当該市町村（および隣接市町村）を起点にした商品提供に限定されている現状の内容では効果が限定されています。直接東京等大市場を起点とした旅行商品造成が可能な枠組みの実現に向け、国にも働きかけながら、検討していきます。

■参考：観光庁「観光地域づくりプラットフォーム研究会」における取りまとめ（平成22年9月）

1. 観光地域づくりプラットフォームの定義

着地型旅行商品の販売を行うため、地域内の着地型旅行商品の提供者と市場（旅行会社、旅行者）をつなぐワンストップ窓口としての機能を担う事業体。既存の観光協会、商工会議所などの組織が、機能を拡充することにより、「観光地域づくりプラットフォーム」となるケースも想定される。

2. 「観光地域づくりプラットフォーム」に求められる要件

- ・ 観光事業者のほか、農商工関係者、NPO、住民等の多様な主体の実質的な参加
- ・ 着地型旅行商品の展開に係る企画・販売機能
- ・ 法人格を有すること（株式会社、NPO、LLC、社団法人、財団法人等）
- ・ 持続的に収益を確保できる仕組み（着地型旅行商品の販売、自治体等からの受託事業、飲食・物販事業等）
- ・ 組織を担う人材（リーダー、企画・調整者）

3. 観光地域づくりプラットフォームへの支援方策

観光庁は、全国各地において「観光地域づくりプラットフォーム」の形成を早急に推進するため、成功事例の早期構築を図り、ノウハウや情報の集約を行う。

また、得られたノウハウ・情報等を活用し、助言・指導等を行うことにより、関係省庁と連携して、観光圏以外の地域においても「観光地域づくりプラットフォーム」の形成を支援する。

- ・ 普及啓発段階：普及啓発のための研修（日本観光協会）、テキスト整備、研修講師のリスト整備
- ・ 設立準備段階（組織化支援）：専門家の派遣によるワークショップ開催等による合意形成、事業計画策定の支援
- ・ 運営初期段階（人材育成・活動支援）：着地型旅行商品の企画・販売（広告宣伝、苦情処理を含む）、受付・決済システムの導入、研修やOJTによる人材育成の支援（複数年度）。なお、自立的で持続可能な運営のための収益の仕組み（飲食・物販等の事業）の構築や企画・調整者の人件費については、関係省庁や地方自治体との連携による支援も有効
- ・ 成長段階：発地側の旅行会社との商談会開催、旅行会社・IT企業等との着地型旅行商品の流通促進・情報発信に係る勉強会の開催等

資料）観光庁

⑫品質管理の徹底と品格ある地域づくり

<主旨・ねらい>

- ▶ 観光客のニーズは移ろいやすく、常に「不易流行（品格ある地域づくりに向け、まもるべき本質的な価値と、時代やニーズに即して柔軟に対応していく価値）」の観点から観光地としての品質管理やニーズへの対応を図っていきます。
- ▶ また、各地域での取り組みをトータル的にマネジメントできるような人材育成や専門家を派遣できるような体制を整備していきます。

<具体的アクション（三十六計）>

⑫-1 定期的な顧客満足度調査の実施

- ・ 定期的な顧客満足度調査を実施し、観光客入込数等の客観的データと照らし合わせながら、取り組みの効果と必要な改善点を検証します。
- ・ それぞれのまち・集落のキャパシティを認識し、観光客入込数や観光地としての発展速度、出店の質などを適正に管理（コントロール）していきます。

（顧客満足度調査での主な把握事項）

属性（年代、性別、居住地）／旅行形態（個人、団体等）／同行者タイプ（家族、友人等）
これまでの来訪経験／観光行動・主な来訪先／予定滞在時間／地域内予定消費額
満足度（来訪前の期待、来訪後の実感を点数で把握）

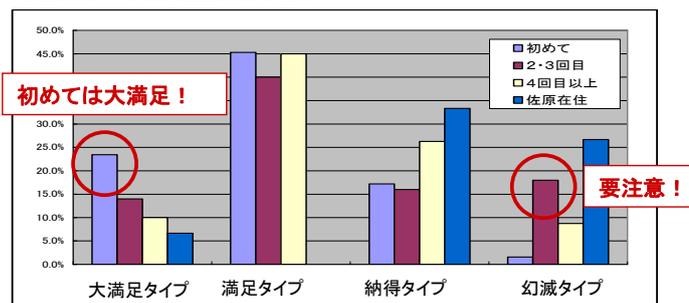
■参考：満足度の把握・分析方法例

来訪前の期待と来訪後の実感を点数で把握することで、その差から「満足」「納得」「幻滅」の顧客にグループ分けすることができる。また満足度と、それを規定する要因とのクロス集計分析により、必要な改善方法を見出すことができる。

◆佐原に対する満足度（実感－期待）

タイプ	平均点		(実感－期待)	人数(人)	割合(%)	
	実感	期待				
大満足タイプ	86.6	43.1	+50以上	7	3.9%	16.9%
			+40～49	11	6.0%	
			+30～39	13	7.1%	
満足タイプ	85.2	71.2	+20～29	34	18.5%	46.2%
			+10～19	42	22.8%	
			+1～9	9	4.9%	
納得タイプ	82.5	82.5	0	45	24.5%	24.5%
幻滅タイプ	67.3	79.8	-1～-9	4	2.2%	12.0%
			-10～-19	11	6.0%	
			-20～-29	5	2.7%	
			-30以下	2	1.1%	
計(有効回答者数)	82.5	70.4		184	100.0%	100.0%

◆満足度のタイプと来訪回数との関係



⑫品質管理の徹底と品格ある地域づくり

⑫-2 苦情情報の共有化と的確な対応～“ピンチをチャンスに運動”の展開

- ・ クレームを寄せてくれるのは、香取ファンだからこそ。アンケートやホームページへの書き込み等、積極的にクレーム情報を集め、関係者で共有するとともに、然るべく改善を図っていきます。
- ・ また、地域としてのホスピタリティのある事後対応を徹底することで、クレマーを香取ファンとして取り込んでいけるようにしていきます。

⑫-3 各種取り組みをマネジメントする人材の育成・登用・派遣

- ・ 観光まちづくりに対する「高い志」を維持し、品格ある地域づくりを継続して進める上では、客観的な視点で地域を俯瞰し、マネジメントの基本要素である(a)工程管理、(b)品質管理、(c)予算管理、(d)危機管理の4つを総合的に担う人材が必要になります。
- ・ 各種研修会や協働事業への参加を促すなかで、このような各地域の取組みの円滑な推進、集客・観光・交流の魅力の維持・向上等を担うマネージャーを育成し、その積極的な登用を図っていきます。
- ・ また各地域の取り組みを俯瞰し、香取市としての集客・観光・交流の魅力の維持・向上に向け、各種の施策や協働の活動を横断的・総合的にマネジメントするとともに、新たな手を機動的に打っていけるような、トータル・プロデューサーの存在も求められます。専門的な知識と多様な経験をもち、場合によっては外部の視点で地域を評価しながら、今後の方向性を示唆することができるような専門家をトータル・プロデューサーとして任命し、必要に応じて地域に派遣できるような体制整備を図っていきます。

2-3 戦略プロジェクトと目標との関係

前述したように、本アクションプランでは、以下の目標（先に掲げた目標とする地域の姿と数値目標）の達成を目指しています。

- ①地域容量を勘案しながら、観光客数を持続的に拡大 ⇒ 新規顧客獲得
- ②顧客満足度の向上とリピーターの獲得
- ③滞在時間の延長・宿泊比率の向上
- ④消費機会拡大による市内経済効果の向上

次頁は、1 ダースの戦略プロジェクトと三十六計（具体的アクション）が①～④のどの目標達成に効果をもたらすものかを示しています。ただし①～④自体が相互に関連して実現されるものであり、そのため各アクションは何らかの形で上記目標に効果を及ぼすとも捉えることができます。

いずれにしても、三十六計のひとつひとつに着実に取り組み、目標とする姿を達成していくことが重要です。

■ 1 ダースの戦略プロジェクト・三十六計（具体的アクション）と4つの目標との関係

◎…設定目標に直接かつ強く関係 ●…設定目標に関係

基本方針	1 ダースの戦略プロジェクト	三十六計（具体的アクション）	設定した目標との関係				備 考
			観光客数拡大		地域内消費拡大		
			新規顧客獲得	リピーター獲得	滞留化宿泊化	消費機会拡大	
記憶の継承	【戦略プロジェクト①】 地域個性の追求 ～地域の集客・観光・交流物語づくり～	1 ◆各地域の暮らし・文化に関わる“お宝”発見とデータベース化	●	●	●		地域に眠る“お宝”や地域自慢の商品化 ⇒ 地域の魅力の奥の深さを生み出す
		2 ◆各地域の魅力を伝える「地域ものがたり」の編集	●	●	●		同 上
		3 ◆各地域の個性ある魅力・イメージの積極的な発信	◎	●			地区毎の特徴を生かした積極的なプロモーション ⇒ 香取市来訪の動機づけ
	【戦略プロジェクト②】 もてなしの心づくり・ 環境づくり・仕組みづくり	4 ◆次世代の暮らしを担う人材育成ともてなしの演出	●	●			ホスピタリティ地域住民とのふれあい・交流 ⇒ リピーター化や滞在化につながる感動創出
		5 ◆“心のバリアフリー（五感+1）”の展開	●	◎	●		同 上
		6 ◆市民による観光・交流の実践	●				市民利用が観光客数増加、リピーターやファン獲得の第一歩
個々の魅力向上・可視化	【戦略プロジェクト③】 新しい原石の発掘・磨きかけと 感動を呼ぶ文化・体験プログラムづくり	7 ◆新たなコンテンツの発見・創出	●	●	●		香取市を訪れ、滞留する魅力・楽しみの増大に直接つながる。また文化・体験プログラム自体が“売れる”商品となる。
		8 ◆文化・体験によるプログラムの魅力づけ	●	◎	◎	●	同 上
		9 ◆ウォーキングコース等の設定	●	◎	◎	●	ウォーキングコースの設定 ⇒ 奥の深い各地区の魅力を満喫する旅の動機づけ
		10 ◆地域住民との心の交流の拠点となる場の整備		◎	●		地域住民との交流促進が“知り合い”を増やし、リピーター獲得につながる。
		11 ◆各地域の魅力を伝達するガイドの養成とスキルアップ	●	◎	●		ガイドツアーの充実 ⇒ 奥の深い各地区の魅力を満喫する旅の動機づけ
	【戦略プロジェクト④】 香取滞在メニューの提示と 地域創発商品化	12 ◆プログラムの組み合わせによる地域創発型商品づくり	◎	◎	◎	●	香取市を訪れ、滞留する魅力・楽しみの増大に直接つながる。地域創発型商品自体が“売れる”商品となる。
		13 ◆モニターツアー等の実施によるブラッシュアップ	◎	◎			モニターツアー参加者が、新たな顧客やリピーターとなる可能性がある。
	【戦略プロジェクト⑤】 地域個性を生かした宿泊機能の充実	14 ◆「町屋ステイ」の推進		●	◎	◎	宿泊滞在の魅力づけ、動機づけに直接つながる。
		15 ◆廃校舎等の宿泊研修施設としての活用		●	◎	◎	宿泊滞在の魅力づけ、動機づけに直接つながる。
	【戦略プロジェクト⑥】 新しい取り組みに対する支援と 仕組みづくり	16 ◆主体的地域活動の可視化・相互連携と行政との協働体制の継続・強化	●	●	●		多様なアクションの円滑な取り組み・実現につながる基本的なアクション
		17 ◆大学や専門家、香取サポーター等との応援体制づくり	●	●	●		同 上
連携・ネットワーク化	【戦略プロジェクト⑦】 玄関口機能の充実 ～ゲートウェイの形成～	18 ◆交通結節点としての機能強化と認知度向上	◎				交通アクセス機能の強化、情報発信 ⇒ 香取市来訪の動機づけ
		19 ◆ゲートウェイ間の情報の共有化（ゲートウェイ協議会の設置）	◎	●			同 上
		20 ◆香取市全体の総合観光情報の発信	◎	◎			同 上
	【戦略プロジェクト⑧】 快適回遊の実現	21 ◆循環バスや舟運等の連携と利便性向上	●	●	◎		市内を回遊する2次交通条件の整備 ⇒ 滞留・滞在化の動機づけ
		22 ◆レンタサイクルシステム・サイクリングコースの充実			◎		同 上
		23 ◆安全・安心の巡り歩き環境の整備			◎	◎	ゆっくりとまちや里を歩く環境の整備 ⇒ 滞留・滞在、買い物を楽しむ動機づけ
		24 ◆町巡りバスポート・共通乗車(舟)券の発行			◎	◎	割引等の特典のあるバスポート ⇒ 買い物等の動機づけ
	【戦略プロジェクト⑨】 産業と連携した集客・観光・交流 の魅力創出	25 ◆ものづくりとの連携による体験プログラム化		●	●	◎	工芸、酒、醤油などのものづくり産業の活性化につながる。
		26 ◆「食」を活かした地域連携の促進	●	●	●	◎	食の魅力は、観光客の観光地選定の重要な要件。また観光消費の中心でもある。
		27 ◆「農」や「自然」を生かした交流居住の促進		◎	◎	◎	香取市を再訪し、ゆっくりと里や農業の魅力にふれながら、滞在や宿泊を楽しむ機会となる。
【戦略プロジェクト⑩】 情報の受発信の充実と 利用者目線でのネットワーク化	28 ◆ホームページやデジタルサイネージ等の有効活用	◎	●			積極的な観光情報発信(プロモーション) ⇒ 香取市来訪の動機づけ	
	29 ◆利用者の立場に立った情報伝達	◎	●			同 上	
	30 ◆香取ファンとの“心の交流”の展開		◎			香取ファンとの心が通じる交流 ⇒ “知り合い”を増やしリピーター化促進	
持続的マネジメント	【戦略プロジェクト⑪】 戦略的地域プロモーションと ワンストップの受入体制づくり	31 ◆「香取を有名にする」戦略的プロモーションの共同展開	◎	●			積極的な観光情報発信(プロモーション) ⇒ 香取市来訪の動機づけ
		32 ◆外国人観光客の誘致プロモーションの展開	◎			●	積極的な観光情報発信(プロモーション) ⇒ 外国人旅行客の香取市来訪の動機づけ
		33 ◆観光コンシェルジュ・まちづくり事業体の形成	●	●	◎	●	持続可能な観光地経営に向けた、体制づくりにつながる基本的なアクション
	【戦略プロジェクト⑫】 品質管理の徹底と品格ある地域づくり	34 ◆定期的な顧客満足度調査の実施	●	◎	●	●	顧客満足度の維持・向上 ⇒ リピーター獲得
		35 ◆苦情情報の共有化と的確な対応～“ピンチをチャンスに運動”の展開		◎			クレームに対する地域全体での改善への取組み ⇒ 顧客満足度を高めリピーター獲得
		36 ◆各種取り組みをマネジメントする人材の育成・登用・派遣	●	◎	●		戦略プロジェクトとアクションの円滑な実施を図る。これにより着実な目標達成を目指す。

〔3〕集客・観光・交流アクションプランの進め方

本章では、本集客・観光・交流アクションプランの推進に向けて、柱となるプロジェクトとその展開シナリオを明らかにするとともに、推進及びフォローアップを担う体制のあり方や効果検証方法等について取りまとめます。

3-1 展開シナリオ

着地型旅行商品の造成・流通促進、自立自走できる組織経営、香取を有名にするプロモーション、香取ファンの育成等つながるモニターツアーへの取組みから、3つの柱となる戦略プロジェクトを本格始動

前述した1ダースの戦略プロジェクトの中で、立ち寄り・日帰り型から滞在・宿泊型へと集客・観光・交流の利用構造の変革をもたらすとともに、香取市の知名度向上を図ったり、多様な体験プログラムの提供や観光コンシェルジュ機能の整備等によるホスピタリティ形成を担うなどの重点戦略プロジェクトとなるのは、次の3点と考えられます。

これらは他の戦略プロジェクトとの関連性が強く、また市民活動団体等観光事業者の注目度も高いものでもあります。

【戦略プロジェクト③】 新しい原石の発掘・磨きかけと感動を呼ぶ

文化・体験プログラムづくり

【戦略プロジェクト⑤】 地域個性を生かした宿泊機能の充実

【戦略プロジェクト⑪】 戦略的地域プロモーションとワンストップの受入体制づくり

また、これらの戦略プロジェクトは、

- ▶ オール香取での着地型旅行商品の造成・流通促進
- ▶ 各観光事業運営、あるいは市民活動団体の自立自走化（ある程度収益をあげて、運営を自立させていく）
- ▶ 香取を有名にするプロモーション推進
- ▶ 香取ファンの育成（リピーターになるとともに、品格ある地域づくりのサポーター育成）

などにも共通して波及していくものであり、この4点を優先的なねらいとしながら、それぞれにプロジェクトが相互に関連しあって効果を発揮するように、事業展開を図っていくことが望まれます。

このような考え方にに基づき、次頁では、主要な戦略プロジェクトの事業展開シナリオを「1～2年目：現状の取り組み継続・強化と新たな事業・ステップへの準備の段階」「3～5年目：新たな事業・ステップの実現段階」に分けて示しています。

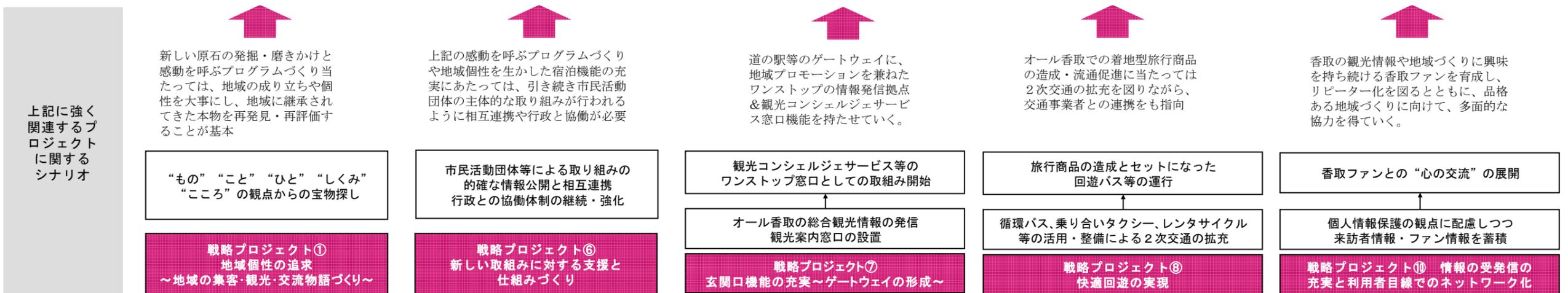
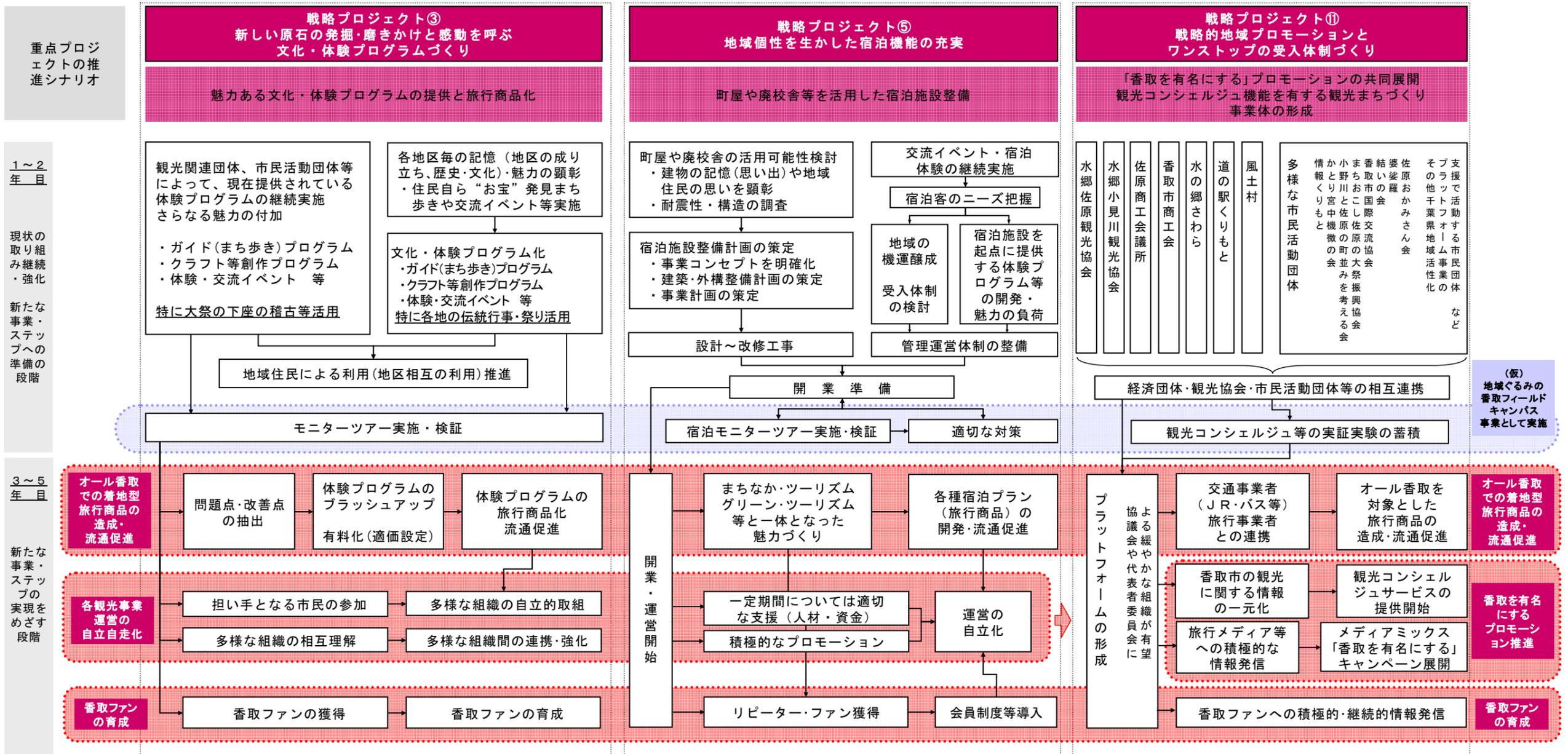
なおこれらのプロジェクトの先駆けとなるモニターツアーや実証実験については、多面的な展開を指向し、市民活動団体や地域住民をまきこみながら、早期に実施に取り組みます。本プラン策定作業の一環として水郷佐原観光協会や佐原商工会議所の強力を得て実施した、観光コンシェルジュ機能に関するアンケート調査等もそれにつながるものです（調査結果の詳細は参考資料参照）。

来年度以降については、以下のような具体的な事業案が考えられます。

《(仮)地域ぐるみの香取フィールドキャンパス事業案》

- 香取市の観光まちづくりの実態や諸特性に応じた、観光まちづくり事業体の具体的取り組みと今後の展開方策に関する実証的検討
 - ⇒ まちなかタイプ～まちぐるみB&Bシステム構築とまちめぐりコンシェルジュの検討
 - ⇒ 農村タイプ～集客核との連携・既存未活用施設を核とする事業システムの実証的検討
- 香取ならではの教育体験プログラムの体系化と実証的取り組み
 - ⇒ 香取の集客・交流テーマ(香取交流八景)に基づき、全市をキャンパスに見立てた教育体験プログラムを創出し、実証実験を通じて実現性についての磨きかけを指向

■戦略プロジェクトの展開シナリオ



3-2 効果的な推進体制

全体の協働・連携・各種調整機能を担う集客・観光・交流アクションプラン推進協議会により、着実な推進を図る

香取市集客・観光・交流アクションプランの推進は、これまで佐原、小見川、山田、栗源各地区において集客・観光・交流に関わる役割を自覚し、当事者意識を持ちながら、取り組んできている民間組織や市民活動団体の知恵や経験、継続的事業実施が基本となることは言うまでもありません。今後はこのような多様な組織間、個性豊かな地区間の連携を図っていくとともに、新たな取り組みや市民参加を促していくことが必要となります。

このような多様な組織の連携と、それぞれの推進力の結集を進めていく役割は、水郷佐原観光協会、水郷小見川観光協会、佐原商工会議所、香取市商工会が担いながら、行政の的確な支援や官民の協働のもとで、戦略プロジェクトを推進していくことが重要となります。

■集客・観光・交流アクションプラン推進協議会

事業全体を俯瞰しながら、集客・観光・交流アクションプランを円滑に進め、効果が発現されるような前向きな協議や意見交換の場、コーディネート場として、集客・観光・交流アクションプラン推進協議会を設けることが考えられます。

この協議会は、旧佐原市中心市街地活性化に関して関連主体の連携や取り組み推進役となった「佐原戦略ビジネス事業推進委員会」をモデルとすることができ、水郷佐原観光協会、水郷小見川観光協会、佐原商工会議所、香取市商工会、各地区ゲートウェイ（水の郷さわら、道の駅くりもと、風土村等）、市民活動団体（NPO法人かとり宮中機微の会、同 小野川と佐原の町並みを考える会、同 まちおこし佐原の大祭振興協会、香取市国際交流協会、結いの会、NPO 婆婆羅、佐原おかみさん会、情報くりもと等）、交通事業者、関連行政等をメンバー構成としてスタートさせつつ、必要に応じてメンバーを加えていくといった進め方が望まれます。

この協議会組織が、前述したような“香取市”全体としての地域プロモーションを担うとともに、ワンストップ型観光コンシェルジュ機能の具体的提供のあり方や一元的な受け入れ体制等に向けた取り組みの場となります。

■行政における推進体制

民間事業者や市民活動団体を支援したり、協働する行政組織としては、商工観光課が窓口となり、市民活動推進課、企画政策課等の必要な部署と緊密な連携をとって、取り組みを円滑に進めていきます。

また国や県の施策との連携にも配慮していきます。

3-3 アクションプランの効果検証とローリング

定期的な効果検証と、PDCA（プラン⇒ドゥ⇒チェック⇒アクション）サイクルに基づく確なローリング

香取市集客・観光・交流アクションプランの効果は、集客・観光・交流アクションプラン推進協議会において、以下のような項目で検証していきます。

- 本プランで掲げた戦略プロジェクトが実現しているか
- 本プランで目標としている「一人二役一貢献」の姿が広がっているか
- 観光客数の維持・向上（量的数値目標）、観光客の宿泊・滞在化や、満足度維持・向上（以上質的数値目標）が達成されているか

このような検証は、顧客満足度調査（戦略プロジェクト⑫品質管理の徹底と品格ある地域づくり）と連携して定期的の実施していくことが望まれます。

前述したような各項目の達成状況や顧客満足度調査結果によって、必要な事業を追加するなど、3年毎にプランの内容を見直しつつ、行政予算を予め想定・確保したり、予備活動や準備を進め、着実に事業を進めていきます。